

金光学園

# やっなみ

2016. 3





# 卒業式



## グローバル対応の取組～SSHにおける「国際化」の取組についての発表会～

探究開発部長 田中 誠 「でないものがあつた」

探究授業推進委員長 籠崎 恒祐 「ポスターは総じてよく出来ているが、スベリンSSH推進プロジェクトリーダー 森下 美穂 グ等の間違いもあつた」という指摘もいただきました。

本校は、平成23年度から文部科学省より5年間のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を頂いて、取組をすすめてきた。平成24年度からは「SSHにおける『国際化』の取組についての発表会」を開催し、「英語活用」にも重点をおいた取組を行ってきた。平成27年度は2月11日（木・建国記念の日）に開催し、全国の大学等から33名の専門家と、西日本の大学や近隣のALT等68名の外国人の協力を頂いて盛大に開催することができた。他のSSH校や大学からも参加を頂き、51テーマの発表が英語で行われた。会場随所で、質疑応答に奮闘する姿が印象的であつた。

〈専門家・留学生の感想から〉

助言者・留学生からは、

「とても熱心に研究しておられたこと、レベルの高さが心に残つた」

「昨年にも増して、興味深い研究内容に惹かれた。仮説構築も魅力があつた。堂々と発表できていた学生が多かつた」という意見が多かつた。

「質問に臨機応変に答えられなかつたシーンもあつた。英語でQ&Aを上手こなすため、最初の反応をスムーズにできるように工夫する必要がある」

「構成の良し悪し、読みやすいポスターとそう

「参加生徒の感想から」

「昨年11月から英語での発表練習を始めて、例年よりも1ヵ月ほど短い準備期間でしたが、それぞれが自分の言葉で一生懸命質問に答えることができた。」

「日本語での説明と英語での説明の違い、難しさを再認識できた。今後、英語を使う機会が増えていくと言われている今、自分の英語力を今一度見直す必要があると感じた」

「質疑応答がとても難かつた。日本語だらけから簡単に伝えられるようなことも英語だけになると思うように伝わらずもどかつた。もっと英単語や熟語などのボキャブラリーを増やしてたくさん外国人とコミュニケーションをとりたい」

（まとめ）

前述のように、校外の専門家から、高い評価を頂いた。参加した生徒からは、達成感とともに、自らの課題も見えてきたようである。グローバル化が進む社会の中で、「発信力」の強化、「英語運用能力」の伸長が求められている。本校では、この1年間に本大会へ参加した留学生の他、短期・長期の留学生等、150名を超える外国人の受け入れを行い、数多く「英語でのコミュニケーション」の機会があつた。来年度は、SKYPEを利用した、海外の生徒との交流等も計画している。



### ありがとうございます

小川 恭史

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の保護者の皆さん、おめでとうございます。そして本当にお疲れ様でした。卒業生の皆さんは長きにわたる学園生活、様々なことがあつたと思いますが、そのひとつひとつが、これから始まる新しい歩みの中で大切な大切な経験となつて必ず活かされます。しっかりと胸に刻んで旅立つて行つていただきたいと思ひます。保護者のみなさん、みなさんが、ただただ子どもたちが、幸せであるように、そして楽しい学園生活をおくれるように願ひ、惜しみのない愛を注ぎ、見守り支え続けてきたことを子どもたちは知っています。ほつまつ祭が子どもたちにとって最高のお祭りになるように、毎日のように学園に通つていたことを、そして祭りの当日は汗を流して一生懸命裏方を務めていたことを子供たちは知っています。言葉にはしてないかもしませんが、感謝の気持ちでいっぱいだろうと思ひます。感謝の気持ちを胸に立派な卒業生として旅立つて行きます。

そして、今度はこの子どもたちが、保護者としてこの学園に帰ってくるのを楽しみにしています。

昨年の総会で、やつなみ保護者会会長にご承認をいただいてから、あつという間に1年が過ぎました。保護者の皆様には1年間本当にありがとうございます。特にほつまつ祭に向けて、献身的にご尽力をいただき、頭の下がる思いです。おかげさまで、今年も素敵な金光ベアちゃんが生まれたのをはじめ、素晴らしいほつまつ祭となりました。ほつまつ祭でいただいた収益は子どもたちの未来のために、大切に使用させていただきます。

私自身何もできておりませんが、1年を振り返つて保護者会活動に参加してよかつたと思つただけであれば幸いです。

本当に1年間ありがとうございます。

（やつなみ保護者会 会長）

### 目次

巻頭言	1
第68回高校卒業式	2
道(14)	28
活躍する卒業生 赤澤 沙織	30
学園随想(74) 山本 澄枝	32
やつなみ保護者会のページ	34
会報	36
メタセコイア	37
活躍おめでとう	38
探究授業報告	42
中1合唱コンクール	44
中2学年集会	47
ある日のホームルーム	50
AFS留学生紹介	52
生徒入賞作品	54
生徒会活動	57
学園だより	64
教室の窓から	66
編集後記	66

# 第68回高校卒業式

## 式辞

校長 金光 道晴



ご来賓の皆様方には、ご多用の中を金光学園高等学校卒業式にご臨席いただき誠にありがとうございます。また平素から学園教育にご協力とお祈り添えいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。お子様が、初々しい新入生として入学してこられたのも、過ぎ去ってみればついこの前のような気がいたします。

入学の時には金光教の前教主のお歌「ちはははも こどもとともにうまれたり そだたねばならぬ 子どもちはははも」という歌を紹介いたし、「お子様が新入生として入学したのと共に、保護者の皆さまも新入生の親として同時に入学したのですから、子と共に、親としての成長を求めさせていただきましょう」とお話をさせていただいたのであります。

が、今日は卒業生の「ちははは」として、お子様と共にこの学園を卒業していただくのでありますから、感無量の思いでおられること存じます。数日前に、ある卒業生のお母様から突然のお手紙をいただきました。きょう今日もお出でになつていられると思いますが、便箋3枚に丁寧に書かれていました。内容は一言で申せば、「感謝のお手紙」でした。

卒業式の概要  
3月1日朝8時5分、卒業生231名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、金光卓人さんが卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意を代表でお届けした。第1部の式は、ほつま体育館にて10時に開式。金光学園歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より代表の荒島拓馬さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、佐藤乃武雄理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と前金光教教主の梶尾桃花さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 山本正三氏の挨拶、来賓祝辞（岡山県会議員 渡辺知典氏）、送辞、答辞（山口華代子さん）と続き、最後に「蛍の光」を斉唱して第1部は閉会した。第2部の祝宴は、会場を小体育館に移して行われた。ほつま同窓会会長 山本雅夫氏から同窓会入会の歓迎の言葉、衆議院議員 柚木道義氏よりお祝いのお言葉そして卒業生保護者代表 児嶋静香氏と梶房小百合氏より記念品目録贈呈（中学棟全普通教室へプロジェクト設置）、2代校長 佐藤金造先生作詞の「若き人よ」の斉唱の後、お祝いとして、音楽部コーラスが「あなた」を、音楽部吹奏楽団が卒業生の部員も交えて「ZARDのクシヨ」を演奏した。東幸蔵さんの先唱で食前訓を唱え会食。歓談の後、様々な保護者会会長 小川恭史氏からそれぞれお祝いの言葉があった。そして学園生活の3年間ないし6年間を振り返る「あしあと」が道廣映子先生、塚田佳恵先生、森谷英子先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思い返した。終わりに、保護者代表の楠戸敦子氏、卒業生代表の藤澤彩加さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。



子供が地元の学校ではなく、学園に入学を希望した時に、随分悩んだこと。入学してからも家庭でも、学園生活でも様々な問題もあつたけれども、子供はそれらを頑張つて乗り越え成長してきたこと、そして部活動にも一生懸命取り組み、悔いのない学園生活をおくつてくれたこと。先生や学校へ心からの感謝していること、人として大切なことを学んでくれたことなどが書かれていました。

お手紙を読ませていただいた私の方が感謝の気持ちで一杯になりました。保護者の皆様には、お子様の入学以来、今日までいただきました学園教育へのご支援とご協力に対しまして、改めて心からの御礼を申し上げますとともに、お喜びを申し上げます。

保護者の皆様へのお話が長くなつてしまいました。

さて、卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は学園生として、最後の本部広前への参拝をし、代表の金光卓人君がこれまでの御礼とこれからお願いのお届をされ、教主金光様からは「本日はおめでとうございます。ただ今は代表の方がお願いされましたよう

に、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって世話になる全てに礼をいう心を持つて進んでいかれますよう祈つてやみません」とのお言葉を頂戴いたしました。そして先ほどは卒業証書をいただくため、めでたく第68回卒業生になられたわけでありませんが、今年の卒業生の皆さんは、例年の卒業生とは少し異なる新しい環境に置かれて



いることに気づいているでしょうか。

その一つは、昨日行いました「卒業献血」です。昨日は赤十字血液センターから献血車に来ていただき、希望者による献血を「卒業献血」として、初めて実施したのであります。私も皆さんや先生方と一緒に、献血をさせてもらいましたが、今岡山県をはじめ、日本全体でも輸血などの血液が不足してきています。

何より懸念されているのは、若い10代、20代、30代の人達で、献血する人が激減してきていることです。皆さんもほとんどの人は、献血の経験はないと思います。特に初めての時は、献血することに不安や負担感で二の足を踏むような気持ちになってしまいます。実際これから、なお、入試を控えている人もいますし、また4月からの新しく始まる大学生活のことなどを考えると躊躇する気持ちにもなった人も多かったと思います。

一人の献血という行動は小さくさやかなものかもしれませんが、そのことは、間違いなく人のために役立つ大きな働きに繋がります。広がっていくと思います。また自らの健康診断にもなるという利点もあります。今回出来なかった人も、また

の機会には是非自らの意志で行動し参加してみてください。

次に、皆さんが例年の卒業生とは大きく異なることは、選挙権の18歳引き下げにより、これから行われる選挙では有権者になるということであり、少なくとも7月に行われる参議院議員の選挙では、皆さん全員が有権者として国政選挙を迎えることとなります。しかし、現在の選挙の投票率は決して高くはありません。特に若い世代の投票率は大変低くなっています。もちろん、選挙に行きさえすれば良いということではありませんが、皆さんは間違いなく次の選挙から主権者として、政治に関わることになるのであります。政治的無関心であっていいわけはありません。これからは主権者として国のこと、世界のことをしっかり考え、社会参加、社会貢献についても取り組んでいただきたいと思っております。

皆さんはすぐに社会人になるわけではありませんが、4月からは、これまでの高校生活とは違って、自らの自覚と責任を持って、行動しなければならぬことが沢山できてくると思います。献血や選挙権のことを一例としてお話しました

が、社会参加するということは、自らもその社会の一員として、社会に貢献し、世のお役に立つ働きをしていくということとでなければなりません。是非金光学園で学んだことを元にそれぞれ取り組んでいただきたいと思っております。

ところで、話は変わりますが、卒業にあたって、明治時代の終わり頃、学園の創立間もない頃の卒業式の日のお話を一つ紹介します。初代校長の佐藤範雄先生は、卒業生のために町内の旅館で送別の会を開き、そこで洋食を用意して、その食べ方を教えたというのです。その宴席に一同が着席するや「今日は皆が社会に進み出る第1日目である。洋食の食べ方を知らぬでは恥をかく。また母校の名折れになるから、教えておく。ナイフ、フォークの持ち方、置き方、音を立てぬ事である」などと自ら手を取って教えられたというのです。さらにびっくりするのはその肉は、遙照の南の山でウサギ狩りをして、そのウサギの肉で洋食を作ったというのであります。100年以上前のことですが、まだこのあたりには野ウサギが沢山いたのでしょう。

私はこのことを単なるエピソードとして紹介しているわけではありません。その

初代校長の心に思いをはせると、卒業生を送り出すことを喜び祝う気持ち、これから卒業生に元気で頑張ってもらいたいという気持ち、反対に別れを惜しむ寂しい気持ちなどが入り交じっておられたと思うのであります。

加えて、卒業生が社会へ出て困ることがないように、恥をかくようなことがないようにとの心遣いと愛情の表れとしての洋食の送別の宴を開かれていたのではないかと思うのであります。私も先生方も実は今日は、その初代校長と同じような気持ちになつているのであります。

その後送別の宴は40年ほど前まで、校内の調理室や、やがて岡山のホテルを会場にテーブルマナーズとして受け継がれていきましたが、このあとの2部での祝宴は、形は変わりましたが、初代校長の思いや願いがずっと、受け継がれて来たものではないかと思わせたのであります。

さて、今日は金光学園生としての最後の教育の場であり、私として卒業生の皆さんにはなむけの言葉を一つだけ選べと言われたら、皆さんは私がどんな言葉を贈ると思えますか。

それはやはり「人をたいせつに 自分

をたいせつに 物をたいせつに」という合言葉であります。皆さんは入学以来、様々な場面で、何度も何度も聞いてきたと思いますが、今日からは聞く機会が少なくなると思います。でも、いつまでも、いつまでも「母校の心」として、大切に、大切に、覚えていて欲しいと思います。なぜなら、私はこの合言葉こそ、皆さんがこれからの長い人生を歩んでいく上での最も大切な宝物になると確信しているからです。またその精神はテロや国際紛争問題、地球の環境問題、人間や人間関係にかかわる問題など、我々人類が抱えている全ての問題を解決する心だと信じています。

いよいよ皆さんは旅立っていきます。3年ないし6年という年月は長い人生の中ではわずかな時間かもしれませんが、皆さんはそれぞれこの学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎を築いてこられたことを確信しています。どうぞ卒業生の皆さん、この「母校の心」を胸に元気に羽ばたいて行ってください。健闘を祈っています。最後にもう一度「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」

## 送 辞

在校生代表 大月 貴弘



厳しい冬の寒さも和らぎ、うらかな春の暖かさが感じられるようになりました。本日、卒業を迎えられた先輩方、誠にありがとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。先輩方と過ごした日々を思い出すと、時の流れの早さに驚かされます。私たちが在校生にとって、先輩方と過ごせた時間は本当に貴重なものでした。

先輩方は、探究活動において、化学ゼミが全国大会であるSS日生徒課題研究発表会でポスター発表賞を、天文ゼミが高校生科学技術チャレンジで佳作、「集

まれー科学への挑戦者」で優秀賞といった栄誉を受けられました。また、「全国物理コンテスト物理チャレンジ」で奨励賞、「日本生物オリンピック予選」で優良賞、「サイエンスチャレンジ岡山で上位入賞」、「数学の森 in 京都」で銅賞といった数々の賞を受賞されました。その他の活動においても、「十七歳からのメッセージ」、「大原美術館とあなたが紡ぐ物語」、「英語レターコンテスト、英語エッセイコンテストで受賞するなど、次々に輝かしい成果を挙げられました。さらに、放課後の自習室などを利用して、部活動を終えた後も遅くまで残って勉強されています。私達はその姿から、先輩たちを見習い、部活動と勉強の両立に努め、より一層勉学に励んでいきたいと決意を新たにしました。

先輩方は行事にも本気で取り組まれました。ほつま祭では1年生の時に展示の部で1位と3位を、演技の部で1位を獲得されました。2年生の時には、演技の部で1位から3位までを独占され、その独創的な演技は、見る者を惹きつけるほど素晴らしいものでした。展示の部でも工夫を凝らした取り組みで、クラスの

団結力を見せつけられました。体育会では、毎年活気あふれる競技を繰り広げられ、今年度は特に息の合った三十人三十一脚に圧倒されました。体育会に向けて団結してひたむきに練習されている姿は私たちの憧れでした。

部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では、陸上競技部、バレーボール部、少林寺拳法部が全国大会に出場、卓球部が男女とも中国大会に出場されました。文化部でも、音楽部コーラスが全国総合文化祭と声楽アンサンブルコンテスト全国大会に出場されました。

さて、昨年の12月に日本で、世界一のサッカークラブを決めるクラブワールドカップが行われました。日本の代表としてサンフレッチェ広島が出場し、世界3位という素晴らしい成績を収めました。

また、オリンピック出場をかけてカタールで行われたU23アジア選手権では地元フアジャール岡山の選手を含む日本代表チームが優勝し、オリンピック出場に花を添えました。この韓国との決勝戦は大逆転での勝利であり、私たちに夢と感動を与えてくれ、最後まで諦めなければ必ず奇跡は起こり得るものだとすることを

思わされました。さらに、今年度の本校の創立記念式では、フアジャール岡山の社長である木村正明さんが講演をされました。日本中で過疎化が進み地域創生が叫ばれている昨今、木村さんは私財を投げ打って、地域に夢をもたせたい、地域から日本を変えたいという想いから地元岡山のサッカーチームの社長を引き受けたそうです。そのお話しの中で、木村さんの郷土に対する熱い思いをひしひしと感じました。そして、「なぜ勉強するのか」ということを教えていただきました。卒業生の皆様も大きな夢を持ち続け、それに向かって頑張ってください。そうすれば、必ず願いは実現できると思っています。

3年前の創立記念式では、「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーの川口淳一郎さんの講演がありました。その「はやぶさ」の後継機に当たる「はやぶさ2号」は、先輩の皆さんが進路を決定されて受験に向けてのスタートを切った頃の一昨年の12月、小惑星「リュウグウ」に向かって出発しました。かつて「はやぶさ」は、数々の苦難の壁に直面しながらも、プロジェクトに参加する全員が最後

まで全力を尽くしたことで、はやぶさ計画を成功させました。そして、JAXAはその成功を基に、新たな挑戦に向けて「はやぶさ2号」の計画を実行したのです。私たち後輩から先輩方へ改めてお伝えしたいことがあります。それは、「努力は裏切らない」と言うことです。「はやぶさ」は数々の人たちの努力の結晶です。努力から生み出された技術で苦難に立ち向かい、それに打ち勝ち、世界初の成功を成し遂げました。同じように、先輩方にも努力の積み重ねをこれからも継続して欲しいと思います。そして、高校卒業後にそれぞれが新しい道へ進まれても、また新たな次の目標を決めて自分を高めていってほしいと思います。努力は決して裏切りません。ちょうど「はやぶさ2号」が地球に戻ってくる予定の2020年には、先輩方も社会人として立派に歩み始めていらっしゃる頃だと思えます。先輩方の更なる飛躍を祈念いたします。

今年から18歳以上の人に選挙権が与えられることになっています。在学中に18歳を迎える私たち高校生の義務と責任も大きくなっていきます。だから、私た

ち一人一人が社会を担う一員として自覚を持ち、学園生活を送っていききたいと思えます。

最後になりましたが、先輩方は行事や部活動を通して私たち後輩を優しく、時には厳しく導いてくださいました。私

たちが上手いかず悩んでいるときには励ましてくださいました。先輩方との思い出を語ればきりがありません。いつまでも名残りは尽きませんが、卒業生の皆様の更なるご活躍とご健康を、在校生一同心からお祈り申し上げます、送辞とさせていただきます。



## 答 辞

卒業生代表 山口 華代子



冬の寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れを感じられる季節となりました。

本日は私たちのために、このように厳粛で盛大な卒業式を挙げていただき誠にありがとうございます。そして私たちの門出にあたり、ご来賓の皆様をはじめ、多くの方からお祝いや激励のお言葉をいただき卒業生一同、心より御礼申し上げます。

3年ないし6年前、真新しい制服に身を包み、学園生としての第一歩を踏み出した日がつい昨日のことのように思い出されます。以来、私たちは仲間と共に励

まし合い、高め合いながら勉強や部活動、学校行事に取り組み、輝かしい最高の時間を過ごすことができました。この金光学園で過ごした一日一日がかけがえのない大切な宝物となりました。

学園生活を振り返ってみると様々なことがありました。入学してすぐに牛窓のカリヨンハウスで行われた学習合宿では、高校での学習方法を学ぶとともに、これからの学園生活を共に過ごす新たに加わった仲間と交流を深めました。修学旅行では、北海道、オーストラリア、シンガポール・マレーシアの3コースに分かれて、それぞれのグループで半年間にわたる事前学習を行い、実際に現地に行つてからは積極的に現地の人と交流することによってさらに知識を深め、旅行を充実させることができました。その他にもほつまつ祭や球技大会などたくさん思い出があります。もともと印象に残っている行事はやはり高校3年生の体育会です。特に、今年度新たに行われた三十人三十一脚では、練習ではなかなか上手くないが、諦めそうになったこともありましたが、本番ではブロックを越えて、応援を含めた23人みんなが一丸とな

り、今まで培ってきた仲間同士の絆を活かして、持てる力を十分に発揮することができました。様々な行事を通して、学年の団結が深まるとともに、「今」という時間を大切に過ごし、「今」しかないこの時を充実させていく大切さを実感することができました。

さて、この1年を振り返ってみると様々な出来事がありました。例えば、ラグビー日本代表の活躍に日本中が歓喜したことです。ラグビー日本代表は過去にワールドカップでは1勝しかしていませんでした。そこで日本代表チームのメンバーは世界の強豪国に勝つという誰もが無理だと思ふような目標を立て、さらに日本のラグビーを変えろという強い意志を持ち、4年間、世界一厳しい



と言われる練習に励んできました。その結果、日本代表チームは優勝候補の南アフリカに勝利したことをはじめとして、3勝をあげ世界中を驚かせ、私たち日本国民に大きな感動と勇気を与えてくれました。自分たちの力を信じ、強い意志を持って努力することが日本のラグビーを変えたのです。私たちはこのことを通して、どんなことにも自分の可能性を信じてチャレンジすることの大切さを学びました。その他にもこの1年は日本を元気にするニュースが数多くありました。しかし一方で暗いニュースも多くありました。その中で最も忘れられない出来事はやはり過激派組織「IS（アイエス）」のことです。日本人殺害やパリをはじめ世界各地でテロ事件を起こし、多くの人々が恐怖や不安にさらされています。私はこれらの事件に大きな衝撃を受けました。このことは私たちに無関係なことではありません。今年伊勢・志摩サミットが開催されますが、倉敷市では各国の教育大臣の会合が開かれる予定です。当然厳重な警備が行われると思いますが、私たちも国際社会の一員として、テロは他国で起こっている事件というのではな

く、自分たちの問題としてとらえることも必要ではないでしょうか。何故テロ事件が世界中で起こっているのか考える必要があると思います。民族や宗教、考え方が違うからといってそれを認めず、テロや殺人を行うことは決して許されることではありません。人間にとって最も大切なことは自分の考えを一方的に押し通すのではなく、相手の立場を受け入れる寛容さや思いやりの心を持つことではないでしょうか。お互いの主張に耳を傾け、広い視野を持つことを心がければ、周りとの関係の改善につながり、解決策が見えてくるはずです。大切なのは人と人との繋がりで、私たちはこれから出会う多くの人との繋がりを大切にしていきたいと思えます。これからの未来を担っていくのは私たちであり、私たちの努力で平和な世界を実現し、未来をより良いものにしていくことができると思っています。

3年ないし6年間の金光学園の生活の中でも、多くの人との出会いがありました。先生方は、時に厳しく、時に優しく、私たちを見守り指導してくださいました。困っているとときや問題を抱えてい



ができました。

学校生活の中で、辛いことや悲しいこと、嬉しいことがあったとき、いつも側には友人の存在がありました。時にはぶつかることもありましたが、切磋琢磨し、刺激し合い、互いに高め合っていました。悲しみを乗り越えて喜びを分け合ってきた仲間とは、これから別々の道を歩んで行ってもいつも「心は一つ」です。

そして、18年間、私たちの成長を一番近くで見守ってくれた家族。毎日の弁当作り、部活動では、汗まみれのユニフォームの洗濯や応援、塾の送迎など、あらゆる場面で私たちを支えてくれました。悩んだり不安でいっぱいな時、何か言われると素直になれず、反抗したり八つ当たりをしたこともありましたが、それでも優しく救いの手をさしのべてくれました。いつも真っ直ぐに私たちに向き合ってくれ、今日まで一緒に歩んでくれました。ずっと見守ってくれて本当にありがとう。これからは私たちが家族の支えとされるように、成長していきたいと思えます。父や母は今も、これからも私たちのお手本です。感謝の気持ちは言葉では十分表せませんが、これからの人生を精一

杯生きて、両親からもらったかけがえない命を日々輝かせ、大切にしながら、より多くの人と出会い、より多くの人を幸せにできる人になりたいと思います。

これからの金光学園を担う在校生のみなさんに伝えたいことがあります。それは、こうありたいと願う自分の将来像をしっかりと思い描いて欲しいということです。努力の結果は必ずついてくると信じて、諦めずに自分の思う道を突き進んでください。

私たちは今日、金光学園を卒業します。過去は変えられませんが、現在そして未来は自分の努力次第でいくらでも変えることができます。後悔だけはしないように、どんなことにも最初から無理だと諦めることなく、私たちは一人一人の夢に向かってそれぞれの道を歩んでいきます。合言葉である「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を忘れずに、新たなことや困難なことにも積極的に挑戦していきたいと思えます。

最後になりましたが、お世話になったすべての方々へ深く感謝の意を表すとともに、伝統ある金光学園の更なる発展を願ひ、答辞とさせていただきます。

答辞 送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3 荒尾 真衣 高松 茉優  
田井英里奈 小見山知遥  
蜂谷 敏樹 山口華代子  
川上 将司

◇送辞起草委員◇

高2 山本 佳歩 尾野有起良  
土屋 昌希 佐藤 稜  
佐々木千暢 重西 祐輝  
眞田 剛寛 橘高 裕人  
松村 佳拓 川崎 菜鈴  
高1 横山凜太郎 中田美菜子  
斎藤 悠維 山口 美可  
森永 有美 森本佳乃子  
下妻 由佳 宗野 紗奈  
佐藤すみれ 高本 帆乃  
西井 芳治

# 卒業を前に思うこと

## 生徒

### 感謝

1組 荒尾 真衣

金光学園での6年間は、本当にあっという間でした。しかし、6年間の中でたくさんのお話を学び、多くの人に出会い支えられ、大切なものをたくさん得ることができました。

最も印象に残っている事は、部活動です。私は6年間コーラス部に所属していました。部活動が続ける中でやりたいと思うことや劣等感に押しつぶされそうになることが何度もありました。そんな私に顧問の先生が「信じて続けたら絶対何か変わるから」という言葉をかけてくださいました。この言葉を信じて続けると技術面の向上だけでなく、仲間と共に舞台を作り上げ、歌を届けることの大変さ、すばらしさを実感し、たくさんものを得て、私自身が大きく成長し、変わるこ

とができました。そして何より続けることの大切さを実感しました。これから学園を卒業し、新しい場所へ行ってもこの言葉を忘れず頑張っていきたいと思えます。

日々の学校生活では、仲間と共に笑い合い、支え合いながら、行事などを通して絆を深めることができました。そして勉強面では本当にたくさんの先生方に助けていただきました。放課後、質問に行くと分かるまで何度も教えてくださったり、大学のことについて調べてくださったり、相談にもたくさんのおついでいただきました。

あたたかい素敵な先生方ばかりで学園に入った本当に良かった



と改めて思いました。

憧れだった学園を卒業し、また新たな憧れの地に旅立とうとしています。これからの人生の中で、苦しいことやつらいことがあっても、学園での生活を思い出して、支えにしながら自分らしく頑張っていきたいと思えます。みんなに、学園に、心から感謝です。本当にありがとうございました。

### 感謝と将来の夢

2組 中村 奈々

金光学園での思い出は数多く、本当に充実した6年間を過ごす事ができました。特に、金光学園に通うこの6年間の中で、私は初めて、心から尊敬し、そうなりたいと思える人に出会う事ができました。その人は、どんな時にでも、「奈々なら大丈夫」と言ってくれて私に安心をくれました。そして、どんな時でも私を信じてくれていました。私はその人の優しさに



付け込み、甘えてばかりいました。しかし、私にはウエディングプランナーになるという夢があります。私は、その夢に近づぐために、結婚を取り巻く社会全体の仕組みについて、大学で経済学という視点から学びたいと思っています。金光学園を卒業し、今まで共に学んだ仲間達やお世話になった先生方に頼れることが少なくなる事を考えると、とても不安を感じます。それでも、たくさんの人々に支えられている事に感謝しながら、将来の夢に向かって一歩一歩進んでいこうと思います。

### 金光学園で得たもの

3組 田邊 詢

私は、金光学園で過ごした6年間で多くのことを得ることができました。

入学当時は、知り合いがおらず、不安しかありませんでした。しかし、同じクラスの人が声をかけてくれて徐々に不安はなくなっていました。沢山の友達や仲間をつくることができ、毎日がとても楽しかったです。

6年間続けてきた陸上競技部は、私にとってかけがえのないものとなりました。

と思いました。同級生や先生、地域の方々などの大応援の中で試合ができたことは、最高の思い出です。僕はこの先も野球を続けますが、金光学園で過ごした高校生活を土台にして、これからも頑張っていきたいと思っています。

### 挫折と挑戦

5組 光成 巧

金光学園ですごした6年間は、とても有意義なものでした。沢山の人と出会い、様々な経験をしました。特に高校では「挫折と挑戦」の連続でした。

僕は昔から絵が好きで、将来は絵に携わる職に就きたいと思っていました。高校からは美術部に入部し、2年生では部長を務めて、絵の教室にも通いました。しかし、理想と現実の違い、他の人たちの中で劣等感を抱き、絵を描くことが苦痛に感じるが多くなり、初めて挫折を味わいました。しかし、絵の道を断念したことで自分の視野の狭さを気づき、自分を見つめ直すきっかけとなりました。

挑戦したことで良いこともありました。高校美術展示会で作品を展示した時

た。顧問の先生は、競技面での指導はもちろん、生活面についても厳しく指導してくれました。陸上競技部の合い言葉に「継続は力なり」「練習は嘘をつかない」という言葉があります。私はこの言葉を信じ、今日まで必死に走ってきました。私をここまで成長させてくれた陸上競技部には、本当に感謝しています。私はこれから次のステージに進みます。不安はありますが、金光学園陸上競技部で学んだことを大切に走り続けていこうと思います。

私は、金光学園に入学して本当に良かったと思っています。6年間の学園生活を通して、沢山の思い出をつくることができました。学園生であったことを誇りに思い、自分らしく進んでいこうと思います。

最後に、わがままな自分をこれまで見守り応援してくれた母や、支えてくれた全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

### 金光学園野球部で学んだこと

4組 岩本 慎太郎

僕は金光学園で、野球を通して学んだ

のことです。賞を取ることはできませんでしたが、一般の来場者のアンケートに、自分の努力していたところを評価するコメントがありました。たとえ結果がなくても自分がした努力は、誰かが見てくれていることを改めて知りました。

挑戦することで辛いことは沢山あります。諦めることも沢山あります。その繰り返しで人は成長することを、この学園で経験しました。

共に笑い、はげましてくれた友人、進路について相談のつてくれた先生方、自分の1番の理解者であり、支えてくれた両親には、感謝の気持ちでいっぱいです。卒業すると、また新たな地での挑戦が始まります。この先、どんな困難が待ち受けているかわかりません。学園で経験したことを生かし、挑戦し続ける思いをもって、大学でも頑張ります。6年間本当にありがとうございました。

### 金光学園でよかった

6組 山口 華代子

卒業を目前に控えた今、私は多くの方への感謝の気持ちと寂しさで胸がいっぱいです。それと同時に新たな進路へ進む

ことがたくさんあります。特にその中でもキャプテンとしてチームをまとめることの難しさを学びました。僕は新チームになってキャプテンに指名されましたが、なかなかチームをまとめることができませんでした。個人個人の力はあるのにチームとして1つになりきれない苦しい時期がありました。そこで夏の大会を前に、3年生全員で何度も何度も本音でミーティングをしました。そこで出た結論が「監督を甲子園に連れて行く」でした。監督にとってこれが最後の夏だったので、なんとしても自分達が甲子園に連れて行くんだ、というチームの目標を改めて作ったことで一体感のあるチームができました。

そして夏の大会では、試合前に必ずグラウンドとスタンドで大きな1つの円陣を作り、みんなで心を1つにして試合に臨みました。結果は惜しくも甲子園には届かず、ベスト8でした。「監督を甲子園に連れて行く」という目標は果たせませんでした。チームが1つになって戦った夏の大会はとても充実していましたし、キャプテンを続けてきて良かったな

にあたり、大きな期待と少々の不安も感じています。

学園で過ごした6年間は、文武両道という目標を掲げることで大変充実したものになりました。私は中高とバスケットボール部に所属していました。中学では、



キャプテンを務め、いろんな経験を通じて成長できたと感じています。時にはチームメイトとぶつかり合い、揉め事も多くありましたが、その度にミーティングを開き、絆や団結力が深まっていき部活動の後の部室では、毎日お腹が痛くなるまで笑いました。愉快的な友達に出会えて良かったと心から思います。勉強面では、定期テストを軸にコツコツと努力を続けることができました。部活動で疲れて、勉強を怠ってしまったことも時にありましたが、総合的には文武両道が達成できました。

また、学園生活の中でたくさんの素敵な出会いがありました。どんなことがあっても、個々の人格を尊重しながら励ましてくださった先生方。そして、毎日笑い合い助け合い、時に切磋琢磨してきた友達に出会えたことは、私にとって大きな財産です。金光学園に入学して本当に良かったと思います。

金光学園に6年間元気に通うことができたのは、両親のおかげです。卒業を機に普段は口にしらない感謝の気持ちを伝えたいと思います。

卒業と考えると、とても寂しい気持ち

## 保護者

### いま、想(おも)い

#### 1組 田所 洋子

早いもので子供達も卒業です。金光学園を卒業し、それぞれの道へ進んでいくことは、親として嬉しさと寂しさが混在する複雑な心境です。でも、子供達は希望に満ち溢れているのだと想うと、これから見守り、立派に成長していく背中を、笑顔でいつまでも見送っていたいです。

卒業を機に娘の成長を振り返ると、人との関わり大切さが実感できます。

これは、私にもいえることで、人との関わりの中で、子と共に私も成長させていただきました。また、同じ悩みや不安、喜びを共有できる仲間もできました。

幼稚園では、友達作りに時間がかかり、小学校の入学式では席から落ちるほどの緊張をしていた娘でしたが、高学年で受け持つようになった先生との出会いが、娘を大きく成長させてくださいました。金光学園への進学も、自分の意志によるものでした。学園にバトミントン部がなかったことで、バスケットボール部に入部

になります。が、学園生活の中で学んだことや思い出を糧に、そして、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合い言葉を胸に刻み、夢に向かって大学でも頑張るつもりです。

## 歩み

#### 7組 長谷川 加奈

金光学園のコーラス部を志望していた私は、念願の合格通知が届いた時には、嬉しくて期待で一杯でした。それと同時に高校から入学するので、知らないクラスメイトと打ち解けられるか、環境に馴染めるか不安もありました。

憧れだったコーラス部に入部したものの、うまく自分を出せず大変でしたが、後から入部した友達と一緒に練習を重ねていくうちに、たくさん部員とコミュニケーションをとれるようになりました。

尊敬する先輩方と臨んだ初めてのコンサートでは金賞を頂きましたが、全国大会出場は果たせませんでした。私の知識や技術が足りず、指導されたことを上手く表現できなかった事を悔やみ、もっと努力が必要だと痛感しました。2人でソ

口を決める部内オーディションに挑戦した際、メンバーと声を合わせることや他の部員と意見交換し、皆で団結することで表現の幅が広がると感じました。そして最後に挑んだコンサートでは全国大会出場を果たし、福島の被災地での演奏やボランティアに参加し、そこで感じ学び得たものは一生の財産になりました。

また、助け合うことは学習面でもありました。ほつま理系の女子は少数なので連帯感が生まれ、日頃の学習から進路のことまで何でも話し合える良き仲間となりました。私は、金光学園に入学して本当に良かったと思います。この経験を大学でも活かして頑張るつもりです。

最後に、部活動を通して知り合った方々、友人達、ご指導頂いた先生方や両親のおかげで高校生活を素晴らしいものにできたことを感謝します。本当にありがとうございます。



しました。中学3年間で精神的に強くなったのは、切磋琢磨した部活動の3年間のお陰だと思っています。県大会では初戦敗退となりましたが、そこにたどり着くまでの過程や決勝戦でのチームの底力には感動をもらいました。行事にも積極的に取り組み、楽しむことができ、文武両道を成し遂げられたのも、校長先生はじめ先生方、部活動の仲間、クラスの域を越えた友達との出逢いがあったのこ

とと思います。

高校生活は、あっという間に過ぎ去っていきました。

「受験」に追い込まれ、潰されそうになりながらも、息抜きのできる場所や友達、先生方がいらしたからこそ、ここま

で来れたとおもっています。

金光学園で過ごした6年間は、まさに「青春」そのものでした。人との出逢いに「感謝」し、金光学園の教えに「誇り」をもって、学園で得たものをこれから始まる新しい生活に活かして「幸せな人生」を歩んでほしいです。6年間お世話になりました。ありがとうございます。



## 大きく成長させていただいた

### 我が子たち

#### 2組 楠戸 敦子

卒業まで1か月余りとなり、子供達は目下受験勉強に励んでおります。母である私も何か頑張らねばと思い、机に向かいペンを執っております。

月日が経つのは早いものだとよく言われますが、改めてそのことを実感しております。女の子と男の子の双子である彼らが、揃って金光学園にご縁をいただき、期待と不安を胸に門をくぐったその日から、かくも楽しい学園生活が始まりました。娘はブラスバンド、息子はバスケットボール部に入部し、部活動中心の毎日を通すことに。勉強のほうも疎かになることはしよっちゅうでしたが、1つのことに熱中する姿は頼もしく、羨ましくもありました。もちろん多感な年頃です。良いことばかりではありません。友達と衝突し、思い悩み、時には涙を浮かべることもありました。親としてそのような姿を目にすると、重い重い心になります。でももう親の出る幕はありません。子供自身の立ち上がる力を信じて見守るだけです。友達への支え、先生のご指導をいた

だきながら、晴れやかな表情を取り戻し、登校する後ろ姿には、大きな成長を感じたものです。彼らが大人となり、自分の学生時代を振り返った時、きつときらきらと輝く青春時代がそこにあるでしょう。

最近彼らは将来のことをよく夢見ています。2人に、「子供ができたら学園に行かせる？」と聞くと、「行かせたい！」と即答します。そんな素敵な学生生活を送らせていただいた金光学園に、幼稚で頼りなかった2人を、温かく、根気強くご指導ください、大きく成長させてくださった諸先生に、共に笑い共に泣いてくれた多くの友達、先輩、後輩に、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

### 卒業を前に思うこと

#### 3組 藤野 明子

6年間、正確には12年間、この金光学園で大変お世話になりました。私もこの金光学園の卒業生であり、この金光学園で学んだこと、そして何よりも多くの仲間を得たことが人生の中で宝物となっています。

娘もこの6年間で笑ったり泣いたり、喜びも悔しい思いも多くの仲間と分かち合えたことでしょう。

娘は吹奏楽部に所属しておりました。家族のような人間関係を作り、また、1つの社会をも築き、社会にいつでも飛び出していけるように鍛えていただいたと感謝しております。

しかし、吹奏楽部の活動の責任がかかる頃、本来の高校生としての学業が後回しになったことがあります。親として悩んで悩んで出した結果が休部でした。忘れもしませんが、私がこの決断を出して以降約1か月間、娘との会話はありませんでした。娘から一番大事なものを取り上げる気は全くありませんでした。でも、今、気付いて変わらなければ、将来きつと後悔する、人生ちよつとだけいろいろな経験をした母から娘への厳しい洗礼でした。母娘のちよつとした意見の相違が友達、先生方、吹奏楽部の仲間にも多くのご心配とご迷惑をおかけしました。1か月後、娘は見事に学業での成果を出し、無事吹奏楽部の活動に復帰しました。この後、娘は将来の目標を見つけ、自身の夢を叶えるべく進路も決め

ました。ここまで来れたのは、金光学園の持つ温かさ、そして穏やかに子供達を見守っていただいた教祖さまの教えだと感謝しております。

今後の益々の金光学園のご発展をお祈り申し上げます。私達は卒業生として恥じない人間になり社会貢献をしていきたいと強く思います。

### 巣立ち

#### 4組 児島 静香

思えば21年9月、突然「金光学園に行きたい」と娘から言われ、目が点になってしまった父と母。受験準備も全くしていません。塾さえ行ったことのないお気楽な小学校生活を送っていた娘。「何で？今頃？」の問いかけに「卓球がしたいから」と、これまた呑気な返答。実は、娘は学園でやっていた卓球教室に通っておりまして。それから猛勉強の日々が始まり、無事合格。娘は宣言通り、卓球一番、勉強は二の次の楽しい6年間を過ごしてまいりました。難しい思春期もあった6年間、親でさえ、匙を投げ出しそうになる中で、先生方のご指導の大変さが身に染みみます。金光学園という大きな巣の中で、時



には厳しく、大切に愛情をもって育てていただき、ありがとうございます。学園の教えを胸に子供達は、力強く歩んで行ってくれるものと確信いたしております。これからの長い人生の中、楽しいこと、辛いことも多々あることでしょう。けれど、学園という巣の中で学んだ様々なことが、後々必ず光りとなり救いとなつて娘を導き、力づけてくれることでしょう。娘は6年間の思い出を胸に、金光学園という大きな巣の中から羽ばたき、旅立ちます。そして時々、羽を休めに古巣に戻り、恩師と友の笑顔に慰められ、励まされ、再び飛び立つ力をいただくことでしょう。先生方、本当にお世話になりました。心より感謝しております。どうか、大きな古巣に帰ってくる子供達を温かく迎えてやっていただければと願っております。最後になりましたが、金光学園のさらなるご発展を心よりお祈りいたしております。ありがとうございます。

### 感謝

#### 5組 掛谷 公恵

この原稿の依頼を受けたとき、真つ先

に思い浮かんだ言葉が「感謝」でした。兄弟2人が金光学園にご縁をいただきました。合わせていただきました。

8年前、期待と不安を胸に入学した頃のこと、ついこの間のように思い出されず。最初の頃は、たくさんの荷物を抱え、電車通学や友達作りなど慣れない環境で大変だっただろうなあと思っていました。

学校行事、参観日、中学高校共に卓球を頑張った部活動。色々なことに頑張っている姿をたくさん見ることができました。特に心に残っていることは、長男、次男共に中学最後の体育会で、一生懸命な姿、表情に思わず涙を流しました。また保護者会では先生方のお話を聞いた帰り道は、いつも心が温かくなったことを思い出します。

息子達の生き生きとした様子を見られたことは、親としてこの上なく幸せだったなあと改めて思い、ここまで導いていただいた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

入学式のと、理事長先生よりいただいたお言葉があります。

私たちはも子供とともに生まれたり

### 雨のち晴れの学園生活

7組 川上 知則

私が中高一貫校である金光学園を身近に感じたのは、職場に多くの学園OBが活躍していることを知ってからです。彼らは皆、明るくて真面目で、仕事熱心。学園出身者の、社会人としてのレベルの高さに感嘆する毎日でした。息子も将来、彼らのように立派な社会人になつてくれたらとの思いをいつしか抱くようになりました。

息子が小6になり、何とか受験に関心をもってくれないかと焦り始めていましたが、そんな親心など微塵も感じとっている様子も見せず、息子はひたすら野球に明け暮れておりました。そんな時、夏のオープンスクールがあることを知りましたが、その日はあいにく試合と重なり、仕方なく参加を諦めました。当日、早朝から試合会場へ向けて出発しましたが、雨が激しくなり試合中止の連絡がありました。急遽、気が進まない息子をユニフォーム姿のままオープンスクールに連れて行きました。思えば、この時の「雨」が、息子にとって運命だったのかもしれない。説明会の中で野球部の先輩方の

育たねばならぬ子もちははも

このように私が成長できたかどうかは疑問が残りますが、息子達には金光学園の合い言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」この言葉を胸に刻んで、学園で培った6年間を自分の糧に、これからの人生を歩んで欲しいと思います。

最後になりましたが、先生方、本当に有り難うございました。

### 素敵なご縁

6組 荒島 恵美子

メタセコイアの並木道を、息子と歩いた平成22年4月から、早、6年が経ちました。息子は、金光学園で過ごした6年間で、心身共に豊かに成長してくれたこと、とても嬉しく、頼もしく感じています。

息子は、学園生活で、素晴らしい数々のご縁をいただくことができました。進路を決め、人生の指針を定める時、担任を初めとする諸先生のお陰で、自分の考え方を肯定し、夢は粘り強く努力すれば必ず叶うと信じ、勉強に取り組むことができました。健康で、勉強や運動できる

話を聞くことができました。部活動や学園生活の様子を実に生き生きと爽やかに話してくださり息子の気持ちが変わりました。自由でのびのびとした校風を実感し、学園で野球をしたいという目標ができました。(親としては勉強のことも少しは……)

念願かなって入学してからというものの、さらに野球に没頭する毎日になりました。野球を満喫し、堪能できたのは息子だけではありません。妻は、早朝から特大サイズの弁当づくり。運転手の私は、朝練に間に合うように笠岡駅まで送ってから出勤。夏は、2時間も早く職場に到着していました。夕方毎日駅で息子を待つてから帰宅。冬は、寒さと空腹と睡眠不足で寝袋にくるまって車内で待つ日々。振り返れば毎日が慌ただしく時間に追われる毎日でした。そんな中でも同じ境遇で子供のために苦労されている野球部の保護者の方々との交流は楽しい一時でした。6年間、野球を通じてかけがえのない経験をさせていただき、本当に感謝しております。

入学のきっかけは「雨」でしたが、今の息子は中学高校6年間学園で勉強し、

ことに感謝しながら、切磋琢磨しました。

また、たくさんの素敵な友人に恵まれ、有意義な金光学園生活を笑顔で過ごしました。中でも、探究クラス化学ゼミでの「オガ炭で燃料電池の道が開けた」では、パシフィック横浜で開催されたSSH全国大会等に、友人と協力し、励まし支え合いながら、出場することができ、息子にとって、これからの人生への大きな自信に繋がりました。

金光学園では、私にとっても大切な方々に出会えました。いろいろな行事や懇親会を通し、保護者の方々と親交を深め、生涯仲良くさせていただけること、感謝しています。

息子は、金光学園を卒業し、充実した大学生活を送り、立派な社会人として、より一層成長してくれることと思います。息子は、金光学園でいただいた、大切な尊いご縁を心の拠り所として、人生を歩んで行きます。

6年間、皆勤で元気に通学できたこと、本当にありがとうございました。

思う存分野球ができて本当によかったと「晴れ」やかに話してくれます。楽しく充実した学園生活を送ることができました。勉強に野球に熱心に指導してくださりました先生方、クラスやチームメイトの皆様のお陰です。本当にありがとうございました。



# 卒業短歌

## 1組

バス投げて走り続けたナンバーQナンバ  
最後に投げる友へのエール  
池田 吉隆

三年間使い古したシャーペンに  
今の自分の思いを乗せる  
小野 一成

忘れじの思い絶えざる星霜を  
経れば積もりメタセコイアの葉  
神原 佑奈

三年間歩みを止めずまた一步  
振り向きざまにスリッパを脱ぐ  
村上 萌実

## 2組

親友と語り明かした過ぎし日を  
思い起こせば我が胸を突く  
木村 大輔

今日になり初めて気づく親の愛  
感謝の気持ち日に日に募る  
徳毛 郁哉

百合の花まだ霜降りぬ通学路  
まなこ下向きこころ前向き  
馬場絵莉香

六年間サイズ変わらぬ制服は  
人一倍の思い出つまる  
丸山由莉子

## 3組

学園になぜ来たのかと問われれば  
そこには自分の揺るがぬ意志あり  
井上 道夫

少数で優勝つかんだ県予選  
努力の成果ここに極まる  
新山 駿

夜遅くご飯を作る母の姿  
目にするたびに元気づけられ  
柴田 莉早

人の手のぬくもり感じ今日も行く  
「感謝」の二文字胸に刻んで  
田井英里奈

## 4組

汗流し朝練後の高き空  
風を感じて今日が始まる  
今井 貴之

二度寝して遅れまいと自転車こぐ  
電車に乗りてまた舟をこぐ  
濱野 晃汰

下校時のわずか二十分素になれる  
バス停着くも降りたくなくて  
長尾 春花

六年でやっと気づいた家族の支え  
やっと気づけた感謝の真意  
中塚 成美

## 5組

三年間汗を流した部活動  
努力の意味を教えてください  
掛谷 崇将

高校は終わりであれど明日もまた  
今の続きの風が吹くはず  
日吉 聡樹

ありがとう家族の愛を受け止めて  
生きていきたい笑顔とともに  
上川 真奈

## 6組

勉強をまだ間に合うと後回し  
苦しく辛い高二の冬  
藤井 優輝

自転車を息を切らして漕いだ朝  
向かい風に心が折れる  
太田 鈴

放課後に歌声合わせた毎日に  
戻りたいなと思う毎日  
小林 史佳

学園の合言葉への我が思い  
当たり前でもそれこそがいい  
岡田 郷

## 7組

新旧の校舎の融合見守って  
私の未来も描き重ねる  
岡本 紗枝

入り混じる希望と不安抱きつつ  
くぐりし門を今は抜立つ  
片山 亜美

永遠と繰り返されるミーティング  
ひとつになつて夏を迎える  
小澤 巧

卒業に誇り着て行く制服は  
ほつれよれでも凛と変わらず  
中野 一志

# 贈る言葉

## 今をたいせつに

安田 智幸

皆さん、ご卒業おめでとうございませう。皆さんと出会ってからあつという間に3年が過ぎました。時間が経つのは本当に早いですね。この3年間を振り返ってみると、楽しい思い出ばかりです。入校時学習合宿では港からカリヨンハウスまで歩き、着いた時にはくたくたで、その中で勉強に集中したりバーベキューで楽しんだり、みんなの体力には驚かされました。高2のほつま祭ではどのクラスもグランプリを目指して協力し、感動して涙が出るものや、おもしろくて涙が出るものなど、素晴らしい演劇や展示でした。体育会にも全力で取り組み、他学年を圧倒しました。高3の体育会も最高学年として、どの種目にも一生懸命頑張る姿は見ていて本当に感動しました。様々な行事がつい昨日のように思い出されます。皆さんはどの場面でも全力でぶつかり、

自分の持っている力を最大限に發揮してきました。上手にいくことばかりではなかったと思いますが、失敗の中で成長し、その時にできることはやり切ったのではないのでしょうか。卒業してもその姿勢を忘れないでください。どんな場面でも、あとで後悔することのないよう、自分のできる最大限のことにチャレンジしてください。やらずに後悔するのなら、やって失敗した方が悔いは残りません。常に自分の可能性を信じて、これからの人生を歩んでいってください。最後に、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに 今をたいせつに」

## 一歩一歩前へ前へ

藤原 俊浩

ご卒業おめでとうございます。みなさんに出会ってもう3年が経ちます。高校生になったばかりのみなさんは、まだ半分は中学生、半分は高校生のような元氣

良さがあり、この3年間で随分成長し大人になったなあと感じている今日のご様子です。これから、進学や就職とそれぞれ道の向かって進んでいくと思いますが、しっかりと自分の考えを持ち、的確な状況判断をしながら、一歩一歩前へと進んでいってください。目標を持って計画的に進めている人は結果的に大きな力を發揮しているケースが多々見られます。特に大学生活は高校生活とは違い、自由度が増す分、自らの責任がはるかに大きくなります。大学で友人たちと刺激し合いながら大きく人間性を高め、社会で活躍されることを願っています。

## 一粒の「種」

西山 龍明

みなさんは、一粒の「種」を持っていきます。その種は他人からもらうこともできませんし、他人にあげることもできません。その種を蒔くのは、「心」という畑です。

しかし、耕さなければ、土は固くなり、いくら種を持っていても蒔くことすらできません。嫌う人もいますが、「雨」だつて土を潤し、柔らかくしてくれる大切な要素なんです。

蒔くことができたとしても安心してはいけません。発芽には条件があります。

「水・酸素・温度」です。「水」は与えずぎてはいけません。「酸素」は多すぎても少なすぎてもダメです。「温度」は種の種類によつて違います。見極めが大事ですよ。そして、しっかりと手間をかけ、かわいらしい芽の姿を思いうかべながら楽しみに待ちましょう。「待つ」ことは時には苦しいことですが、これまた必要なことではないかと思っています。

そうやって手間暇かけて育くんで咲いた美しい「花」は、たくさんの人から愛でられ、誉められ、必要とされ……自分だけでなく他人も幸せにします。そして、新たな輝く「種」となるのです。

そんな人生が幸せなのかなあと思いますが、ご卒業おめでとうございます！

## 出会いが人生を豊かにする

道廣 映子

卒業おめでとうございます。皆さんと出会えたこと、また皆さんの成長を近くで見られたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

新生活がスタートする皆さんには、今まで以上に新しい出会いが待っています。私にも今まで、いろいろな出会いがあり、その中で多くの事を学ばせてもらいました。中でも印象的だったのはラオスの人々との出会いでした。ラオスはアジアの最貧国の一つです。十分な校舎がなく、教科書やノートもない中で授業をしているという話を聞き、かわいそうなお子ども達に何かしたいと思い、ボランティア活動に参加しました。ラオスを訪問して、教育環境が整っているとは言えない中で、それぞれが夢を持ち、熱心に授業を受けている子ども達に出会いました。

校庭では十分な遊具やボールもない中、友達と工夫しながら楽しそうに遊んでいる姿も目にしました。そんな子ども達から、たくましさや頼もしさを感じました。そして与えられた環境の中でお互い助け合い、楽しみながら明るく一生懸命

命生活しているラオスの人々から、お金があることや環境が整っていることだけが幸せでないことを改めて教えてもらいました。また今の自分の環境をしつかり受け止め、その中でどうしていけばよいか前向きに考え、自分らしく一生懸命生活していくことの大切さも学びました。そして私が自分の価値観だけでラオスの子ども達をかわいそうと考えていたことを恥ずかしく思うと同時に、何が幸せかは人が決めることではないということを実感しました。

出会いは人生を豊かにしてくれます。皆さんもこれから始まる新しい生活の中で出会いを大切に、自分らしく様々なことに挑戦し、自分の世界を広げていってください。そしてたまには学校に来て皆さんのいろいろな体験談を聞かせてください。楽しみにしています。

## 卒業おめでとう

平賀 康

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんとの3年間はとても素晴らしい時間でした。いろいろな思い出を書きたいのですが、ここでは書ききれ

れないので、またの機会にしたいと思います。

卒業生に贈る言葉として、私なりに考え、みなさんの今後の人生にプラスになるような1つの言葉を選びました。それは私の尊敬する野村克也監督の言葉です。その言葉は「失敗と書いてせいちよと読む」です。

野村監督は著書の中に「『言い訳をする人間』が伸び悩む理由である。失敗をした時、なぜ人は言い訳をしたがるのか。これは失敗と正面から向き合いたくないからである。失敗から逃げ出しているのだ。だから同じ失敗をまた繰り返す。失敗を多く経験すれば成長するというのではない。失敗した原因究明をし、それを次の機会につなげれば、成長の糧になるということである」とも書いています。

多くの情報が溢れる現代社会においては、失敗をする前に諦めてしまえるような情報もあれば、言い訳に使えそうな知識もたくさんあります。なんでも知ったような気持ちにもすぐなれます。そんなものに惑わされず、みなさんには、とにかく自分の目で見て、肌で感じ、実際に経験して、「そして失敗」してほしい

のです。世の中で評価されるのは、そういう本物の経験だけです。失敗が許されるのは若い時だけ。どんどん挑戦し、失敗を多くしてください。その時にはこの言葉を思い出し、人間として「失敗」してくれば嬉しいです。いつまでもみなさんのことを応援しています。

### 決断力を持つ

成田 知弘

卒業おめでとうございます。皆さんと出会ってもう2年になりますね。たくましくなった姿を見て、本当に時間の流れを感じます。皆さんの学年団の一員としての2年間は本当に充実した日々でした。振り返ると皆さんの楽しい日々を思い出します。2年生ではほつま祭、体育会などのイベントでの一生懸命な姿、高校3年生では入試やセンター試験を笑顔で頑張ってくれた思い出は数知れません。皆さんの思い出をありがとうございます。

4月からそれぞれの道に進み、将来の進路を選択していくようになります。皆さんに身に着けてほしいのは決断力です。成功する人は、決断力があり、大きなものごとくも、スパスパと迷うことなく

決めます。苦手な人は次の4つのことから始めましょう。

些細な事でも積極的に決める

どんな些細なことでも積極的に決める。例えば、今日は昼食に○○を食べようという意識的に決めるなど。

人と接する

決断するための恐怖心を克服するには、一人で考えるより、外に出て人に会ったりすることが大事です。

行動してから考える

一度考え始めると無意識に考え込んでしまう人は、考えるよりも行動をするべきです。行動した後で考える。

夢を持つ

夢を持てば、自然と決断力もついてきます。夢を持つことで自分の中に「判断基準」が生まれるからです。

結果には、良い結果もあれば悪い結果もあります。その中でこれを選べばよいという「正解」は無いように思います。「自由」な反面、「責任」を問われることもあります。人生は自分で作り上げていく「楽しさ」と「怖さ」があります。だから

からこそ自分で考えて行動することはとても楽しいことです。皆さんもこれからの人生を決断し、後悔のない人生を送ってください。

### 真に幸いなる人生を

森谷 英子

いっしょに勉強や行事に取り組んでいくうちに心のつながりが築け、ともに喜びを分かち合うことができて幸せでした。どんなに厳しくてつらくても、つねに真正面からうけとめ、粘り強く取り組む姿勢を頼もしく感じていました。そんなみなさんの卒業のはなむけに武者小路実篤の言葉を贈ります。

人みるもよし 見ざるもよし

されど我は咲くなり

植物が人の目を気にせず、季節が廻ればその花を美しく咲かせるように、私たちも自然のままに自らの尊い命を咲かせればよいという意味だと思います。社会生活を送る上で、私たちは他人の評価や世間の価値観に振り回されてしまいがち。しかし、一人ひとりそれぞれが、か

けがえのない命を、自分らしく凛とした姿勢で生きていけばいいと伝えているようです。人が自分を見ていても、見ていなくても構わない。自分は自分として咲くのです。

「念ずれば花開く」ということばがあります。その「念」という字が「今の心」と書かれるので、学級通信のタイトルは赴任以来一貫して「今の心」としました。新学期にはみんなが健やかに1年が過ぎるように、ほつま祭や体育会などの学校行事には輝く笑顔がみられますように、センター試験に向けては、平常心で臨みますようにと、通信を発行するたびにさまざまな「念」がありました。そして、この瞬間の「今の心」は一人ひとりの幸せを祈る「念」です。

新たなスタートを迎えようとしているみなさん、無限の可能性を信じ、心を大切に自分らしく生きてください。すばらしい出会いをありがとうございます。

真に幸いなる人生を。

### 強い信念を持つ

籠崎 恒祐

ご卒業おめでとうございます。これから皆さんがどのような人生を歩んでいくのか、とても楽しみにしています。

私はあまりにも日本の歴史に疎く、一般常識である時代背景や有名な武将の名前でさえ「???」な感じでした。そんな時、ある先生から「自分の専門分野だけでなく、歴史の本も読むべきだ」と言われて紹介されたのが吉村昭の『冬の鷹』という小説でした。これは歴史音痴の私でも知っている『解体新書』(ターヘル・アナトミアの訳書)に関する歴史小説です。

ターヘル・アナトミアの翻訳には多くの人が関わっていますが、その中心にいたのが、医師である前野良沢と杉田玄白です。オランダ語の注釈付きの解剖図が日本医学の知識と異なっていることに2人は驚き、正確な知識を伝えたいという気持ちが一致して翻訳を開始しました。しかし、実際に翻訳作業に携わったのはオランダ語に関心が高かった良沢であった、玄白は頑固な良沢が機嫌を損ねず作業に取り掛かれる環境を整え、校正や出

版の実務を担当したそうです。現在で例えると、作家が良沢、編集者が玄白といったところででしょうか。

3年もの試行錯誤を経て、ようやく翻訳作業が完了しました。ところが、「翻訳が不完全なので出版は見合わせるべきだ」という良沢と、「早く世に出して医学の助けにしたい」という玄白は考えの違いから疎遠になりました。そして、発行を急ぐ玄白に良沢は自分の名前の掲載を断つたため、翻訳者名として玄白の名前だけが記載されて解体新書は出版されたのです。その後、良沢は医療にほとんど携わらずオランダ語の文献の翻訳を一人で進めるといふ生活を続け、玄白はオランダ医学の先駆者として一躍有名になり、志を持った若い医師の育成に励むという両極端な人生を送りました。

2人とも性格や考え方の異なる相手に対して腹立たしいと思ったことが多々あったでしょうが、両者とも確固たる意志を持っていたことが偉業に繋がったと私は考えます。現代の社会では江戸時代以上に様々な生き方が可能であり、どれが正解なのか決断に迷ってしまいがちです。しかし、良沢と玄白のように強い信

念を持って行動すれば後悔せずに納得のいく人生を送ることができるのではないのでしょうか。

### また会いましょう

塚田 佳恵

ご卒業おめでとうございます。皆さんと3年間一緒に生活できたこと、本当にうれしく思い感謝しています。楽しいと思うことや大事だと思うこと、頑張りたいと思うことについても本気で取り組む皆さんは、私たちの誇りでした。本当に楽しかった。ありがとう。

「自他共栄」。柔道の創始者である嘉納治五郎先生の言葉で、読んで字のごとく自分と他人ともに栄えるという意味です。相手がいるから練習できる、相手が上達するから自分も上達できる。決して1人ではできないからこそ、相手に対して敬意を払い、相手の練習と自分の練習の区別はなく最善を尽くし、信頼関係を培うことが大切だと教えてくれています。金光教の「あいよかけよ」にも通じる場所があります。このことは柔道やスポーツだけでなくすべての生活において言えることだと思います。いつでも周

りの人や物、環境に感謝の気持ちを忘れずにいてください。うまきいったときも感謝の気持ちを忘れずに。

うまきいかなかったときにも、感謝の気持ち忘れずに。

いつでも金光学園に帰ってきてください。元気な姿で、また会いましょう。

### 前向きな人生を

戸田 洋平

ご卒業おめでとうございます。

この春から皆さんは、それぞれの道に進みますが、いつまでも前向きに幸せな人生を送ってほしいと思います。前向きになるためのコツを3つ紹介します。

1つは、早寝早起き、朝ご飯。まずは体力です。生活習慣がつい乱れがちになる学生時代ですが、良質な睡眠をとり、朝一番のエネルギーチャージをして活き活きとした毎日を送ってください。

2つ目は、読書です。健全な身体に加えて心の健康も維持していきましょう。時間が長い大学生活だからこそ、多くの本と出合い、心を大きく育ててください。また、悩み事などできたときには人に話

を聞いてもらうのもよいですが、本屋に行くのもよいと思います。きっと自分の求めていた答えに巡り合えるはずですよ。

3つ目は、夢や目標をもつということです。学生生活の基本は勉強ですが、勉強だけでなく多くの課外活動にも取り組めるチャンスがあります。大きな目標や夢をもってワクワクするような毎日を送ってもらいたいと思います。大きな目標は小さく分けて、達成できたら自分を誉めてあげて少しずつゴールに近づけるようにしてください。

最後に、これからの人生たくさんの挑戦をしてたくさん失敗してください。転んだ数だけ強くなり、経験値が増えます。そしてうまくいかないときでも自分を信じて諦めないでください。どんなときでも皆さん一人一人は、かけがえのない存在として大きな価値を持っています。自分を信じて自分の可能性を最大限伸ばしてください。さらに大きくなった皆さんに会えるのを楽しみにしています。

### 人生は不可逆反応

自分らしい人生を

岡崎 裕

卒業おめでとうございます。理系の人とは授業や補習で2年間、天気気象部の人とは6年間、化学ゼミの人とは3年間、文系の人とは修学旅行での思い出があります。この学年の人は、人なつっこい人が多く、楽しい、良い思い出ばかりです。私にとっては、化学が新課程になって初めての学年で、教材や授業プリントや小テストのあり方など指導法を刷新して取り組んだ学年でした。理系の強い学年だったので、模試の結果も良く、教え甲斐のある楽しい学年でした。

みなさんは入試という大きい試験を迎え、それぞれに現実的な選択を迫られた体験をしました。センター試験の会場でみなさんに言った「何があっても平常心」という言葉は、どんな場面でも言えると思います。また、成功しても失敗しても「人生は不可逆反応」です。すべてはこれからこの人生のための貴重な経験です。大学へ行けば、高校時代に描いていたことは違った世界が見えてきます。大学では、世俗から離れた思いっきり大きい視野か

ら世界観を築いて欲しいと思います。

基礎と専門をしつかりと身に付けつつ、既成概念に固まらない、それを超える、あなたらしい充実した人生を送ってください。

### 「われ常に学びつつ老いぬ」

榎平 恵美子

何時だったか、心に留まって、抽斗に大事にしまい込んでいた1枚のコピーがでてきた。ギリシャの賢人ソロンの言葉（金森徳次郎『読書と人生』より）である。

これは、人生において『学ぶ』と言うことに終わりは無く、学問に限らず、如何なる時も、如何なるものに対しても『学ぶ』という姿勢を持ちつつ生きていることを言っているのだろう。

これから学問の府と言われる大学へ進学する皆さんは、これからしばらく『学ぶ』ことにどっぷりつかり、深く学びながら過ごすわけだが、そこから先、社会へ出て、どんな時にも、終世『学ぶ』姿勢を持ち続けて、人生を『よく生き』てほしい。





# 道 (14)

金光 道晴

## 「豚小屋時代と初代校長」

金光学園は明治27（1894）年に創立されて、今年創立122年目の年を迎えますが、その歴史の中で「豚小屋時代」と言われている時代があります。それは創立当初から約10年の間をさしているのですが、その時代に初代校長佐藤範雄先生がよく「豚小屋から人を出す」という言葉を使われていたことに由来しています。初代校長は創立当初、学校としての校舎や施設が整っていない中で「人物を養成したい。教育をしたいとの熱意にあふれる心がなくては、教育は出来ません。教育心の燃えるところ、校舎も設備も問題ではない」というほどの思いで教育にあたられたのであります。校舎や設備が不十分であっても、大切なのはその精神であり、その心をもって世のお役に立つ人材を育成していくという強い願いを「豚小屋から人物を出す」という言葉で表現されたのであります。

しかし、これらのことで誤解してはならないことは、初代校長は立派な施設や校舎を必要でないとか、持つてはならないということをおっしゃるのではなく、あくまでも教育

上一番大切なのは、その心であり、精神であるということや言われているのであります。この精神は金光教の教祖様のおっしゃる「この道は傘一本でひらける」という精神と相通じるものがありますが、これは教育問題にとどまらず、全てのことにあてはまるものではないでしょうか。一番大切なものは形のある物や建物やお金ではなく、その心であるということをお教えられるのであります。

ところが、一方で初代校長ほど、新校舎建設にかける強く熱い願いを持ち、取り組まれた方はいないのであります。創立当初は学校としての形をなしていないほどの施設でのスタートであったのであります。最初は金光教の教師の養成やその師弟のための学校として、古い民家を借りての数人の先生と数人の生徒から始まったのであります。やがて、一般家庭の師弟も受け入れるようになり、生徒がどんどん増えていきました。そこで、明治30（1897）年には1棟3教室、翌31年には1棟2教室が建てられ、それらの校舎と金光教芸備教会控所とを使用し、校長の倫理の授業などは金光教の教殿が当てられていたといわれています。そしてついに明治32年には岡山県知事から私立学校令に基づいて金光中学として正式な認可を受けることになりましたが、その際にも校舎をすみやかに改築することが条件になっていたのであります。明治30年代になつてからは、少しずつ教室なども建てられてはいたものの、極めて不十分で到底許されるものではなかったもので、その後も岡山県当局からも督促を受けることがしばしばであったのです。

明治35年はその後の金光学園にとって大きな転機になった年であります。1月の金光教議会にも校舎改築予算案が提出され、諮られますが、財的に改築するのは困難との結論に至り、否決されてしまうことになりました。しかし、佐藤範雄先生は決してあきらめることなく、熱き願いを持ち続けられ、卓越した行動力と発言力で、金光教の関係各方面に働きかけ続けられたのであります。例えばその翌月からは全国47カ所で「教学講演」を行い、教育の大切さと、そのための学校改築の必要性を説き、協力をお願いに全国をまわっておられます。そのような中で、再び8月に招集された臨時議会で校舎改築の予算案が提出されたのですが、議会の了解がなかなか得られない中で、九州小倉教会の桂松平師から、「学校用材五百石船一隻積み出した玉島上がり」との電報が入り、ついに議会も改築経費は有志献納という条件で可決することになったのであります。そして、小倉教会をはじめ、金光教全教のお祈り添え中で、様々な困難を乗り越えて、ようやく念願の新校舎が建設されることになりました。明治36年1月には校舎新築の起工式と地鎮祭が執り行われ翌明治37年に完成し、「豚小屋時代」は終わりを告げることになりました。

ちなみに一昨年国の登録有形文化財に指定されたほつま体育館東に隣接している記念講堂は、実はこの年に完成したもので、戦後になって、もとの学校のあった大谷の地からこの占見野に移転し、その時代で唯一残っている建物なのであります。

ところで、当時の生徒たちは「豚小屋から人を出す」ということをどう受け止めていたのでしょうか。みすばらしい建物や施設での授業や勉強をどう考えていたのでしょうか。当時生徒たちは、校舎の小さいのも古いのも恥らわず、不便とも思わず、自主勉学心に燃えていたので、嬉々として学んでいたというのであります。そのことを裏付ける話が残っています。4回の卒業生の長谷川雄次郎師（金光教麹町教会長）によると「当時の校舎は実にじめじめなものでもあったが、佐藤範雄校長は、常に『豚小屋から人を出すのだ』と抱負と確信を持ってよく勇ましく言っておられたが、自分たちはその言葉に励まされ、当時の生徒達もおのずから『豚小屋』に学ぶ身を、誇らしく自負していた」と振り返っておられます。

また6回卒業生の福田源三郎師（金光教神奈川教会長）も、学生時代を振り返って「金光中学在学中ほど印象深いものはない」と言っておられ、それを同級生であった高橋正雄師（金光教教監）に、卒業して50年以上過ぎたころの思い出として話をされています。またその当時のことを振り返って「初代校長は、やはりいつも『豚小屋から人を出す』と声を張り上げて言われておられ、自分たちに向かっても、常に自負心を持たせるように激励して下さっていた。純粹無垢な自分達は本当にそうした意気を感じていた」と話されています。

金光学園の創立当初の「豚小屋時代」に思いを馳せると、初代校長や当時の生徒の心意気こそ、私たちが、改めて求め、学ばせていただくかねばならない心だと思ふのであります。

## 向き不向きより、前向き

赤澤 沙織 (高53回)



「向き不向きより、前向き」これは私が社人になつて言われた言葉です。

CA (客室乗務員) という仕事は私にとって、まさにその言葉の直球ど真ん中をいく存在です。向き不向きだけで考えるとすれば、私は後者だろうなとも思ったりします。しかし、やりたい気持ちがあるから今でも失敗をしつづも続けられています。そんな話を織り交ぜながら、私の思うCAという仕事を紹介させていただきます。

私は実はANAでCAになる為に3、4回程受験しました。そもそも航空業界

は新卒時分から私にとって遠い遠い世界の話で、恥ずかしながらANAとJALという2大航空会社があるということすら知らない無知具合に加え、飛行機で席に座るも荷物の正しい置き方も知らない、席に付いているボタンは機能が分からず、触れるとCAが来そう嫌だからほぼ直立不動状態で体が痛い、というくらいの別世界でした。

そんな中、説明会だけなら場違いでも行ってみようかな、と転職活動中に半ば好奇心で行ってみたのです。場違いでした。大多数がスカートスーツでシニヨンの中、パンツスーツにポニーテール。女性だけでなく他企業説明会の雰囲気とはまるで違い、参加者の姿勢は終始きれいでピンと張った空気。飲まれる…と飲まれかけていたところ始まった説明会。しかしその内容や求めることが航空業界イメージを払拭するようなものであり、様々な人材を求めている印象を受けたことが今まで微塵も考えたことのなかった、この会社でCAになりたい、という考えに至らせたのです。同時にCAだけではなく様々なことに挑戦できる幅広い可能性を感じたのも大きな要因となりました。

した。しかし自分自身、CAは自分のキャリアではないと思っていた恥ずかしさも手伝い、合格を手にするまでは全く誰にも言わず活動していました。因みに何度も諦めなかったのは、学園に入学した理由でもあり青春を捧げた吹奏楽団で鍛えられた根性もあったのではないのでしょうか。

そして遂に合格を手にした時に伝えた周りの反応はまるで金米が震えるほどの激震が走ったようでも度度も聞き直され：おめでとうよりも先に爆笑でした。それほど私とCAは結びつかないものだったのです。しかし同時に有難いことに皆からの応援の気持ちも強く感じています。おかげで、何があってもやっていこう、と入社における覚悟もより固まりました。そんな、不向きな素質を十分に持ちながらも前向きな気持ちを頼りに私はCAの世界へ飛び込んだのです。

入社当初は日々付いていくことに必死でした。例えばCAになる為の訓練初日は、皆さんもよく見かけるシニヨンが一人で出来ず、朝早く同期と待ち合わせで手取り足取り教えてもらったりそれはまさに基本のき以下の状態でした。今までの世界とはまるで違い、どこまでが

許され許されないのかカルチャーショックが続きました。

そんな中忘れられないのは2011年3月11日、東日本大震災のこと。教室で訓練中に建物全体が大きく揺れました。今まで経験したことのない揺れに全員が動揺する中、CAでもあるインストラクターが、揺れた瞬間まずドアを開けしっかりとした声で何度も、大丈夫、と落ち着かせ避難経路に連れて行く人、私達の最後尾に付き全員の避難を援助する人、地上で人数を確認する人、と迅速に役割分担を行的確に誘導する姿を見て、CAの保安要員として求められる意味を初めて理解し、又直後に動揺する人達への心配りを見て、目指すべきところはここなのだろうと気持ちが定まったのです。そして私は今現在、国内線責任者(チーフパーサー)、国際線エコノミークラス責任者、ビジネスクラス担当、という資格を所持しています。

CAはまずは保安要員としての役割が第一というのは大前提として、サービスマンとして占めるところが大きいのも勿論です。CAとして経験はまだまだですが、そんな中でも私が大きく学び基盤

となつていくことが2つあります。「+aの気付き」と「マネジメント」です。

前者については例えばお客様にのど飴を頼まれた時に、のど飴↓風邪気味かしら↓マスクも持って行ってみよう、と気付くこと。ただ気付くだけではなく、その背景を考え、想像し、行動することです。時にはその行動に勇気が必要な時もあります。これをできることがお客様に期待値を超えることであり、フルサービスマンに求められることなのかなと思つていきます。

後者についてはまず規定の多い空の上というところに独特で難しい部分が多いと感じています。そしてそれは人×条件で更に複雑になってきます。人というのは、毎回初対面かつ技量の異なるクルーでフライトをすること。勿論外国籍クルーもいます。マニュアルによりある程度全員が統一された知識や意識を持つてはいるものの、国を超えて持つ個人の様々な環境も尊重しながら瞬時にチームワークを作り進めていかなければなりません。更に条件というのは、その日の天候、揺れ、目的地までの所要時間、予約数、お客様層、クルーの技量等々を勘案して

安全とサービスマンの方針を決定しなければいけないこと。以上を全て鑑みて、状況が多々変わる上空でタイムリーに的確な判断と業務分担、人員配置をしなければならぬので、完璧にできた、と思える日はなかなかありません。ただこういうこと難しさがやがてい繋がついていくことも事実です。この経験は他にも通ずると思つていきます。

しかしなによりこの仕事でのやりがいは、ありきたりかもしれないかもしれませんが、お客様からありがとうの言葉を頂いたり、笑顔を交わしあえた時。やってきていることは間違っていないんだとも思えて、単純に心からとびきり嬉しくなっている自分がいるのです。

元々、私には向いていないだろうと思つていたCA。きっかけがあつて自分の意思で変わった道。沢山の失敗でこの世の終わりかと思う程落ち込んだり、腹が立ったり、嫌になる日もあります。そんな日々でも今はまた次のステップに進んでみたい気持ちも湧いています。向いているかは分かりません。しかし、やりたいう、という前向きな気持ちが少しでもある限り私は続けていくんだろうと思つています。

「学園と共に」

山本 澄枝

岐路

大学4年生の就職活動の時期、私は入院中の母のいる病院と大学との行き来をしていた。娘としてできるだけ母のそばにいたかったので、採用試験の問題集を病院に持って行き、母のベッドのそばで勉強していた。そして、運よく県の教員採用試験の合格をいただいた。それと同時に母校である金光学園の採用試験も受けた。また運よく合格させていただいた。このとき私は人生の岐路にいた。

しかし、私は迷わず金光学園を選んだ。理由は2つ。1つは、あこがれの母校への思い。母校に帰って教壇に立ちたい、母校に帰ってお世話になった恩師の先生方と共に今度は学園教育の発展に携わりたいという思い。もう1つは、かけがえない母への思い。公立の学校に採用されると、まず山間部か海辺などの遠隔地

に赴任する。そんなに離れて入院中の母はどうなるのか？できるだけ近くにいてあげたいという思い。この2つの理由から、私は迷わず金光学園を選んだ。

学園の子

金光に住む私にとって、中学から金光学園に進んだことはとても誇らしいことだった。臙脂色のスカートのセーラー服を身に付けて登校していた学生時代は、とても充実していた。例えば、体育会でチアリーダーになり一生懸命ダンスを考えた。九州への修学旅行では、学級委員として夜の集いをはじめとする旅程全体の企画に参加できた。また、旅行先でお世話になる方々に気持ち良く接していただけのように、みんなが脱いだスリッパ全てを揃えるということも、打ち合わせもなく自然に行っていた。ほつま祭では、

クラスの演劇のオリジナルのシナリオを書き、キャストとしてやり切った。しかし、それよりも何よりも一番覚えているのは大好きな数学の2人の先生のところに昼休みとなく放課後となくよく質問に行ったことだ。私のあまりのしつこさに業を煮やした先生から「お前はいつも重箱の隅をつつくような質問をする！もう、職員室に来るな」と冗談交じりに言われながらも、私は、先生を慕って職員室に足を運んだ。今思えば、この経験が今の自分の原点となり、現在にも活かされているとつくづく感じている。こうして、学園の子として大切に育てていただいた毎日だった。

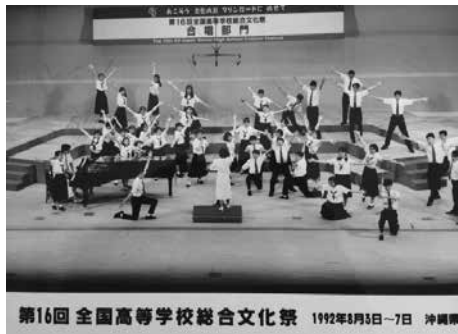
コース

私は、大学で音楽教室に進んでいたこともあり、学園での部活動は音楽部に配属され、放課後はコースの練習に参加した。コースは少人数ではなかなかよい作品ができなかつたので、少しでも良い作品を目指すために部員集めが大変だった。その点、当時中心になって指導をされていた佐藤嘉子先生は、部員集めの面でもプロであった。私は先生の魅力に

あつという間に引き込まれ、共に活動させていたうちに部員の数も徐々に増え、コースの活動も次第に軌道に乗ってきた。そして、大会にも出場できるようになり、念願の沖縄の全国大会にも出場することができた。

部員の意思統一という面では、全国大会出場が決定するまでも、大会を終えるまでもかなり苦労した。選曲するために先生の御自宅まで押しかけ、レベル、曲想、歌詞など学園コースに合う曲を選ぶのに夜遅くまで何曲も聴いた。あの時は目の前の課題を必死に乗り越えることだけを考えていたが、今から冷静に思えば、あの時顧問の私達もとても輝いてい

ただき、全体の講評でも取り上げていただいたことで、本当に感動し生徒と抱き合い共に涙した。この活動は私にとつての大切な宝物の1つとなった。そして、共に練習し舞台上に立ち感動を分かち合った当時の生徒の中に、今、同僚として働いている2人の先生がいることが、現在の私の密かな原動力となっている。



第16回 全国高等学校総合文化祭 1992年3月3日～7日 沖縄県



たのかもしれない。本番の舞台は、それまでの練習や準備、人間関係など様々な思いが詰まったものであった。その本番でひととき大きな拍手をい

学園と共に

数学の教員生活も今年度でちょうど節目の25年を迎えた。高校生の頃から数学

の問題を解くことが大好きで、人に数学を教えることが大好きで、数学の恩師の先生も大好きで、「先生」と呼ばれる親を見て育った私は、自然と教職の道へ進んできた。そして、金光学園の数学教育に毎日エネルギーを注ぐべからず、かつて私の目の前にいた教え子であるということも、私に更なるエネルギーをつくり出してきている。担任をさせていただいたかつての教え子が数学教育の道に進み、そして今現在、席を並べて共に学園の数学教育の発展にエネルギーを注げるように育っているなど、夢のようで教師冥利に尽きる。さらに、私の2人の子供たちも幸運にも学園でお世話になり、今年、下の子が卒業させていただいた。学園での9年間にわたる保護者の役目も何とか終えることができた。

私は金光学園に育てていただき、人生のほとんどを金光学園で過ごしてきた。そしてこれからも進化していく金光学園と共に、私自身も成長させていけるように、一日一日を大切に過ごしていきたい。

# やっなみ保護者会へのページ

今号は、高2、高3の保護者の方々に、それぞれの立場から、学園教育についての想いを書いていたいただきました。

ていきます。

## 教養部編集後記

高2保護者 安原 多賀子

子供が入学してから5年目を迎える春。初めて役員をすることとなりました。どのようなことをするのかも全くわからず知り合いも少ない中で役員でしたので不安もありました。

でも同じ高2の副部長さんや他の方々に温かくサポートしていただいたおかげで、無事年間活動を終えることができました。

春にはまた新しい役員の方々による新しい役員会が始まります。

もしこの先役員になったらどうしよう、という方がいらつしやったら是非やってみようと思います。

金光学園の楽しくにぎやかな雰囲気があるまま流れ込んでいくような役員会です。子供たちと同じように楽しめることが出来るはずです。

いつも子供たちのチャレンジを応援する側ですが、1年間、決して多くはないですが色々なことにチャレンジ出来たこと本当に良かったと思います。

1年間役員の皆様と活動できたこと、

## 陸上競技部の応援を振り返って

高3保護者 田頭 真二

箱根駅伝に憧れた息子が中学から陸上を始めるために金光学園入学を決めたのが6年前。入学式当日、息子が顧問の佐藤先生に入部を意思表示し、先生から「陸上部は文武両道で練習は厳しいぞ」と言われたのを今でも鮮明に覚えています。

息子の夢を私自身も全力でバックアップしようとして試合も欠かさず6年間応援に行きました。応援に行き始めて、中学から高校までの部員が個々の目標に向かって必死に取り組む姿と、先輩後輩関係なく一丸となって応援している姿に感動しました。自己新記録や入賞した時の笑顔、納得のいくレースができずに涙する姿など色々な場面に立ち会いました。

部員一人一人が自己目標を掲げ先生的的確な指導を受け、それを日々の努力で確実に実力をつけて勝負していたと思います。長距離部員は息子一人だったため、本来なら中学駅伝や高校駅伝には出場できませんが、短距離、投てきなど、長距離ではない部員の皆さんの協力によって出場できたことを心より感謝しています。おかげさまで、4月より憧れの箱根駅伝を目指すことになりました。金光学園で仲間や恩師と過ごしたかけがえのない日々を力に変えて、夢を実現してほしいと思います。

最後に、6年間お世話になった先生方、先輩、同級生、後輩の皆さん、本当にありがとうございました。今後も陸上競技部とOBの応援を続け

そして部の仕事では先生方にお世話になり本当にありがとうございました。最後に高3の皆さんご卒業おめでとうございます。

## 卒業にあたり

高3保護者 安原 敦子

学園には、息子の中学入学から数える7年間、お世話になった事になります。長いようで、あつと言う間の7年間だったような気がします。

振り返って考えてみた時、金光学園に我が子を託して一番良かったと思えるのは、何をおいても元気に学校に通ってくれたことです。健康であったことにも感謝ですが、学校が好きで楽しく通える環境であったことに感謝しております。今日は学校に行きたくないとか、宿題が終わってないから行きたくないとか、そう言った泣き言を言わず、勉強は出来なくても、遅刻をしても、焼けるように暑い日も、凍えるように寒い日も、また雨の日も雪の日も、自転車ですらまで行き、電車に30分揺られ、金光駅から学園まで歩く、この毎日の日常を続けてくれたことに感謝です。これは、学園の先生をは

じめ、事務スタッフのみなさん、部活やクラスの友達と、たくさんの皆さまのお蔭としたいと思います。

また、娘は高校1年生の3学期からの中途編入を快く受け入れて頂き、心より感謝しております。当方の無理難題を受け止めて頂いただけでなく、娘の事を一番に心配して頂いた諸先生方の優しさに、一生忘れる事の出来ない安堵の気持ちに包まれました。この、懐の大きさが金光学園の長い歴史の中に流れているのだなあと実感いたしました。

これからの人生、彼らは多くの出会いを経験していくと思いますが、この金光学園で出会えた恩師、仲間を、今後の人生の糧として邁進して欲しいと思っております。本当に、お世話になり、ありがとうございました。金光学園の栄えある歴史が、今後も130年、140年、150年と受け継がれていくことを確信して、期待しております。

## 人をたいせつに

高3保護者 梶房 小百合

「人をたいせつに」「自分をたいせつに」「物をたいせつに」この言葉を息子

には学園を卒業しても大切にしていってほしいと思っております。

この思いがあれば今後の人生素敵な人達との出会いが待っているのでは。人は1人では生きていけないのだから一期一会を大切に。

いつも笑顔を忘れず頑張っていってください。生きていけば色々な壁が目前に高くそびえるでしょう。頑張つて乗り越えられれば成長ができるでしょうが、頑張つても乗り越えられない事もあるかもしれません。そんな時には頑張り過ぎないように回避するのも方法だと思いません。強いストレスを感じる時はどうやったら緩和できるか色々試してみてください。夢に向かってどんどん進んで行って下さい。

応援しています。受験で空港まで息子を送迎している時、この子が生まれてきた時の事を思い出し親元を離れる事を寂しい？嬉しい？成長した事に複雑な気持ちを抱いてしまいました。

卒業にあたり親子共々皆様には大変お世話になりました。素敵な方達に巡り会えた事を幸せに思い感謝いたしております。6年間お世話になりました。

# 会報

**第5回評議員会** 2月19日 13時30分～14時10分。松本副会長司会。内容は以下のとおり。一、小川会長挨拶。二、協議事項。①平成28年度会長・副会長・監事選出の選考委員を決定。選考委員長、宮口智子。選考委員、梶房小百合、湯浅美加、安原多賀子、坂野香世、吉岡浩子。②平成27年度友愛セール売上金の使途について協議。中学棟普通教室15室に、壁掛け式プロジェクトを、今年度高3卒業寄付と合わせて寄贈することに決定。③平成28年度保護者会総会の日程。4月30日(土)に、講演講師に松畑照一氏(中国学園大学・中国短期大学学長)に決定。**第3回全役員会** 2月19日 14時20分～15時30分。松本副会長司会。開会に先立って、12月9日にご逝去された、中塚佳子様に黙祷を捧げた。内容は以下のとおり。一、小川会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。(横山教頭) 四、協議・報告事項。①指導・教養・庶務各

部から年間総括と次年度への申し送り事項。②研修・出張報告。③平成27年度やつなみ保護者会会計決算見込みの報告。④平成28年度会長・副会長・監事選出の選考委員決定の報告。⑤平成27年度友愛セール売上金の使途について⑥平成28年度地区委員・評議員選出について。⑦金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑧教職員外部診断のお願い。⑨平成28年度保護者会総会について。六、その他連絡事項。七、往田副会長による閉会挨拶。**諸会合**  
○1月14日 浅口里庄第3回母親委員会(鴨方) 安原副会長、大本監事が参加。  
○1月22日 幼少中高PTA連合研修大会(岡山) 小川会長、往田・松本・安原副会長、大本・加賀監事、神田常務理事、佐藤事務局長、横山・山本教頭が参加。



高3学級委員の皆さん(二部祝宴にて)

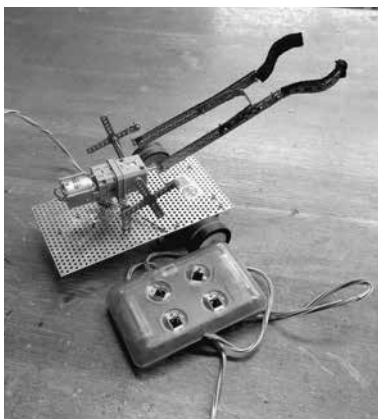


## 中3河本君、西江君、平田君、光畑君、 創造アイデアロボットコンテスト 中四国地区予選大会に出場!!

中学3年生の河本亮君、西江天志君、平田晴紀君、光畑慶亮君、のチームが、技術の授業で制作したロボットで、創造アイデアロボットコンテスト岡山県大会で優勝し、中四国地区予選大会に出場しました。

以下、メンバーの光畑君のコメントです。「僕たちのチームのロボットである平田君は、県大会の1週間前から、毎日ロボットを家に持ち帰り操縦の練習を重ねてくれました。そのおかげで県大会は優勝できたと思います。他のメンバーは当日、平田君を見守り応援することし

かできませんでしたが中四国大会では、惜しくも敗退し、他県のレベルの高さを痛感しました。」  
ロボット制作、大会本番での操縦、応援と、チームのメンバーは初めてのチャレンジに協力して臨むことができたようです。今後の活躍を期待しています。



# 活躍おめでとう

## 《高校卓球部》

第43回全国高等学校選抜卓球大会中国地区予選会（男子団体・女子団体出場）

高2 吉岡 心

僕は県大会でベスト4に入り、中国大会に出場しました。中国大会は岡山での開催のため、慣れている場所だったのですが、いつもとは違った雰囲気でも不思議な感覚でした。そして、いつもとは違った相手でも刺激的でした。

僕はこの大舞台に出場できたこと、そしてこの大舞台で戦えたことをこの先一生忘れなれないと思います。それぐらい刺激的でとても貴重な



な経験でした。僕は予選リーグで敗退して勝ち進んでいくことはできませんでしたが、試合の中でそれぞれの課題を見つけることができました。そして中国大会出場という結果に甘んじず、自分達の今の実力を素直に受け止めて、それぞれの見つけた課題をこれからの日々の練習で克服していき、夏のインターハイに出場するために一層頑張っていきたいと思っています。

高2 西岡 彩貴

私達は1月29日からの3日間、吉備路アリーナで開催された第43回全国高等学校選抜卓球大会中国予選会に出場しました。結果は予選リーグで3位となりベスト8で行う決勝リーグには進めませんでした。その後、2・3位トーナメントを行い決勝まで進みましたがフルセットの末、2対3で敗れました。この大会で大切に思ったことはチームメイトの応援と諦めない気持ちです。今回ベスト4に入

った広島商業を相手に2対3で敗れたものの格上と思っていた相手と接戦となったのは、応援と諦めない気持ちにより力を発揮できたからです。このような結果を残すことができたのも、日々熱心に指導して下さった先生方、共に頑張ってきたチームメイト、いつも応援して下さいる保護者の方々の支えがあったからだと思います。これからも感謝の気持ちを持って日々努力していきたいと思います。

## 《少林寺拳法部》

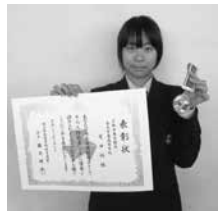
2015年度高体連優秀選手に選ばれて

今年度の高体連優秀選手（少林寺拳法専門部・女子）に高3の有田胡桃さんが選ばれ、2月3日、「ピュアアリーマキギ」において授賞式が行われた。有田さんは7月に兵庫県で開催されたインターハイに出場し、予選・準決勝を勝ち抜いて決勝に進出し、16位となり、専門部から優秀選手に選ばれた。

高3 有田 胡桃

私はまさか自分が優秀選手に選ばれるとは思っていませんでした。嬉しかったのと同時にとても驚きました。顧問の先

生方や一緒に練習してくれた仲間のおかげで3年間部活を続けることができ、高体連の優秀選手に選んでもらえました。多くの方々に感謝し、この気持ちを忘れず、大学でも少林寺拳法を続け、スキルアップしていきたいと思っています。3年間ありがとうございました。



## 《中学柔道部》

中国大会に出場して

中2 森永 慶之

僕は2月14日に山口県岩国市で行われた第8回中国中学生新人選抜柔道大会に、岡山県代表の一員として出場しました。今回が2度目の出場です。昨年の大会ではあまり活躍できず、チームに迷惑をかけてしまったので、今年は活躍できるようにと一生懸命



練習して臨みました。個人成績は2勝1敗、団体での成績は、優勝した広島県チームとの接戦の末、僅差で敗れ、惜しくも優勝することはできませんでした。この経験を活かし、今年の全中出場に向けて日々精進していきますので、応援よろしくお願いします。

## 《中学バレー部》

第12回中国中学バレーボール新人大会に出場してみよう

中2 長谷川 主税

2月6日から山口県の山口リフレッシュユパーク体育館で行われた第12回中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。予選は2戦ともストリートで勝利し、決勝トーナメントに進出しました。準々決勝は鳥根県代表の大東中学校とは緊張していたけど、ストリートで勝利し、準決勝は昨年度全国大会3位の広島県代表の東原中学校でした。苦戦しながらもストリートで勝利し、決勝進出を果たしました。決勝は鳥根県代表の安来第3中学校です。全力を尽くしましたが、相手のエースのパワーに圧倒され惨敗、準優勝という結果になりました。

た。応援して下さった多くの保護者や先生方に感謝し、夏の全国大会に向けて日々精進していきたいと思っています。これからも応援よろしく願います。

第12回中国中学バレーボール新人大会に出場して

中1 上田 颯大

僕たちは2月5日から山口リフレッシュユパーク体育館で行われた第12回中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。予選は順調にストリートで勝利したものの、課題のたくさん残る初日でした。負けられない決勝トーナメント。僕たちは少し緊張感みでしたが、鳥根県代表の大東中学校をストリートで下し、ベスト4に進出しました。続く準決勝は広島県代表の東原中学校です。1セット目



は均衡する中、なんとか勝ち取り、2セット目を引き締めて突っ走り勝ち取り、勝利しました。決勝戦では、島根県代表の安来第3中学校チーム一丸となり戦いましたが、負けてしまいました。応援して下さった多くの方々の期待に応えるためにも日々努力を惜しまず、学園生活に励もうと思います。これからもよろしく願います。ありがとうございます。

### 《高校バレー部》

中国大会を終えて

高3 新山 駿

私たちは五月に行われた中国大会に出場しました。

1回戦で、強豪校である高川学園と戦いました。接戦の末、1セット目を落としてしまい、2セット目も相手のペーシングにまねられ、落としとしてしまいました。

今回の大会



は、自分たちが次のステップへ成長するための課題が多く見つかった大会でした。次の大会では、チーム力で上位進出を狙いたいです。

### 中国新人大会を終えて

高1 中山 翔太

2月12日から14日に広島県で中国新人大会がありました。予選の安古市高校と鳥取商業高校との試合は、共にストレートで勝ち、ベスト8



進出を決めました。ベスト4を懸けた広島工業大学高校戦は、ストレートで負けしまいました。5位決定戦では、宇宙商業にストレートで勝ち、5位という成績を残すことができました。

この度、このような結果を残せたのは、たくさんの方々への支えや応援があったからです。全国大会めざして、日々精進していきますので、今後とも応援よろしく願います。

### 《中学スケート部》

第36回全国中学校スケート大会に出場して

中2 木科 雄登

1月30日から2月2日まで長野県で行われた「全国中学校スケート大会」に出場しました。2度目の参加となる今回は、昨年ほどの緊張はなくショートプログラムの日を迎えました。今シーズンは、初めて「グランプリシリーズ・スペイン大会」に出場することができ、その大会でショートプログラムのシーズンベスト51・25点を出して以来、西日本、全日本大会とシーズンベストを上げることでできていたもので、この大会でも必ずシーズンベストを出すことを考えて演技しました。その結果、60・85点の自己ベ



ストを出すことができ、翌日のフリースケイティングに挑みました。フリーでは、最終グループの最終滑走でした。やはり、自分でも分からない緊張があったのか、普段は失敗することのないジャンプを失敗してしまい、総合165・78点で4位となりました。ジャンプの失敗のために、少し気の抜けた演技をしてしまったものの、思った以上の点が出て、最後まであきらめずに全力で戦うことの大切さを知る試合となりました。また、終了後に、3位との差が0・05点ということを知り、悔しい気持ちも感じました。来年は必ず表彰台に上り、できれば一番高いところに立ちたいと思っていますので、応援よろしく願います。

### 《スキー》

中国高等学校スキー選手権に出場して

高1 西川 華

私は1月25日から27日に、広島県の芸北国際スキー場で行われた第57回中国高等学校スキー選手権大会に出場しました。結果は、出場した回戦、大回戦ともに6位入賞でした。

私は中国大会に出場するのは今回で3

回目でしたが、今シーズンは雪不足思うように練習できなかったのが不安もありました。しかし、失敗しても良いから積極的なレースをしようという心がけ、レースに臨みました。最終的にはいくつかミスが出たり、コンマ差で5位の選手に負けたりと全てが完璧だったわけではなく、悔しいことも多々ありました。しかし、今の自分の力が出し切れ、上位の選手との差が小さくなってきていることも実感できました。

このように、私が大会に出場できるのも、毎年県外への大会への参加を認めてくださる先生方、寒い中遠くまで引率してくださる先生、そして応援してくださる先生、友達がいるからだと思っています。今年も、青森県、岩手県でそれぞれ行われるインターハイ、国民体育大会にも出場させていただけなので、支えてくださる方々に、より一層感謝しながら日々精進していきたいと思っています。

最期に、今回引率してくださった大西先生、本当にありがとうございます。

### 《書道部》

全国競書大会創玄書道会奨励賞

中3 坂口 小枝

中学3年生 坂口小枝さんが全国競書大会で創玄書道会奨励賞を受賞しました。以下、坂口さんのコメントです。  
入学当初から書道部に入り、毎年いくつかの大会に出品、賞をいただいていたのですが、今回は「創玄書道会奨励賞」という素晴らしい賞を受賞することができ、大変驚いています。今回の賞に満足することなく、今後も、努力を続けていきたいと思っています。また、このように掲載していただけて、書道部の活動を知っていただけるのもうれしいです。私の書道活動を支えて下さった先生方や、今回の受賞を喜んでくださった先生方に感謝しています。



# 探究

## 授業報告



### 中3探究

#### ☆デイベート

3学期は各クラスを8グループに分けて、論理力、批判的思考力、調査力、発表力を身につける目的でデイベート大会を行いました。各グループでそれぞれのテーマについて図書室の文献やPCを利用して調査しました。テーマの内容は1回戦が「動物園の動物は幸せである」、2回戦が「18歳以上の国民に選挙権を認める」、3回戦が「日本は救急車の利用を有料化すべきである」となっており、トーナメント形式で実施しクラスのチャンピオングループを決めました。社会問題について考える良いきっかけになりました。

### 高1探究

#### ☆ゼミ活動

文献検索や準備、調査、実験、観察な

どゼミごとに研究を進めています。各個人・グループの研究テーマは、「世界各国の教育制度について」、「発展途上国における女性労働の問題と今後の展望」、「持続可能な地域による観光業を考える」、「道の駅から見る地域創生」、「経済産業省NIPPON QUESTから見る地域創生」、「Anime&Cartoonsを学んで双方の文化を理解し、コミュニケーション力を向上」、「ピタゴラス数」、「Unityを利用したシミュレーション作製」、「変光星アルゴルの研究」、「デジカメによる多色測光」、「風洞実験器を用いた、車体にはたらくダウンフォースの測定」、「各種木材を入手して炭を作り、温度による電気伝導度と吸着力の違いを確かめる」、「昆虫類の生活様式からみた河川環境」、「冬季運動時の水分補給が体温に及ぼす影響」等を設定し、それぞれが意欲的に研究を進めています。2月11日の中間発

表会では、大学等の先生方をお招きして、今までの研究成果をまとめたものを発表し、その後の研究を発展させるためにアドバイスを頂きました。

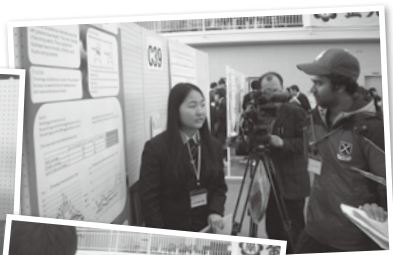
### 高2探究

これまで取り組んできた研究の総仕上げとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させ、論文集としてまとめることができました。理系ゼミは引き続き、2月11日の国際化発表会に向

### 受賞

校外の発表会に参加し、受賞しました。☆集まれ！科学への挑戦者「奨励賞」受賞（高2数学ゼミ）：竹内 勝己

けて、英語ポスターを使い、英語発音や質疑応答の準備など高いレベルを目指して頑張ってきました。国際化発表会では、各分野の専門の先生方や海外からの留学生に助言者としてお越し頂き、内容についての感想やアドバイスを頂きました。





# 中一合唱コンクール

「響く届け！みんなの歌声！」

2月16日(火) 於 小体育館

初めて実行委員を務めて

合唱コンクールが終わって、私は実行委員になってよかったと思いました。理由は2つあります。

1つ目は、クラスをまとめることの難しさを経験できたからです。練習の時に注意しても聞かない人を見ると、正直なところとてもイライラしました。それと同時に、色々な人がいるために1つにまとまらないのだなと



実感しました。

2つ目は、1つのイベントを自分たちで仕上げた達成感があったからです。私はこれまで、実行委員を務めたことはありませんでした。しかし、いざやってみると、実行委員としてみんなのために張り、コンクールを成功させることができたことを嬉しく感じました。

クラスの結果は少し残念でしたが、実行委員として活躍して、多くのことを学びました。この経験を活かしていければと思います。みなさん本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございます。

歌は心を1つにする

2組 岡田 敬生  
今回の合唱コンクールで、クラス全員の団結力が深まったと思う。課題曲は2学期のころからずっと音楽の授業で練習

つにすることができると改めて思った。

成功点と反省点

3組 原田 大義  
僕は、合唱コンクールの実行委員に立候補した。この行事を通じて僕自身が感じた「成功したこと」と「反省すべきこと」を挙げてみる。

実行委員として任されたことは、小体育館を「合唱コンクール会場」に作り変えることだ。仲間と協力して横断幕を作り、会場の準備や片づけを一生懸命がんばった。また、クラスに関しては、最後の学年行事だったこともあって、クラスがいつそう団結した気がした。

反省点は2つある。僕は、実行委員の会議に遅れてしまうことがあった。今後は、時間を守って



行動できるようにしたい。また、提出しなければならぬものが期日に出せていない場合もあった。期限を守る自分になろうと思う。

気持ちのこもった歌が歌えた

4組 中西 大希  
中一だけで行う最後の行事「合唱コンクール」において、僕は副実行委員長に立候補した。みんなの思い出に残るようなコンクールになればと思い、がんばって準備をした。各クラスに3人ずつ実行委員がいて、僕たちが先頭に立って練習を重ねていった。

本番では、どのクラスも気持ちよかったと思った。



し続け、コンクール直前になるとHRやGTの時間に自由曲の練習に励み、吉永先生や副校長先生も驚くような成長を自分たちは見せた。

正直に言うくと、初めのころは、こんなレベルで合唱コンクールなんてできるのだろうかかと不安に思っていた。しかし本番が近づくと、はつきりとした大きな声も出て、全員のバランスも初期とは比べられないほどよくなっていった。さらに自分には、誰の声だとか、誰が声を出していないだとかが少し分かるようになっていった。歌詞の意味も考えるようになった。そして何より、クラスの全員が少し明るくなったように感じる。合唱コンクールのような行事でクラスが活性化するととは思わなかった。



ハモることに力を入れたりソロパートを用意したりと、各クラスに工夫が見られたため、4組の順番になると、みんな緊張していた。しかし、歌い始めると、力んでいたものも自然にリラックスした状態へと変わり、とてもよい歌が歌えた。結果発表で4組は「最優秀賞」だとアナウンスされた。最高の結果で終わることができた。このコンクールでの経験を、2年生になっても活かしていきたい。

一生の宝物

5組 小川 明郁  
私が合唱コンクールで一番がんばったのは、クラス自由曲の「ヒカレ」の指揮です。そもそも、私が指揮者しようと思っただけは、部活で指揮をしていた先生や先輩がすごくカッコよくて、「自分もやってみたい」と思ったことです。しかし、楽譜の読めない私が指揮をするのは、とても難しいことでした。

自由曲の「ヒカレ」は先生が選んでくれました。明るすぎる5組にぴったりの曲でした。しかし最初は、ピアノ伴奏と合わせるのが難しく、クラスで練習した時も「速かった」などと言われることが

ありました。そこで、家でもCDを流して音楽の教科書を見ながら、『ここは何拍子のはず…』と、何回も練習してみました。また、指揮が速くなりがちだったので、『自分も指揮をしながら一緒に歌えば、リズムがちゃんととれるのではなにか』と考え、指揮をしながらみんなと一緒に歌ってみました。歌う時の顔のフォームが大事だと部活で教わったので、「みんな笑顔」というのは無理だとしても、『自分が笑顔で指揮していれば、どうにかならないかな』と、若干無責任ではあります

が、実行してみましたが、実行してみると、目があった女子はみんな笑ってくれて、なんだかすごく嬉しかったです。リズムが違うところなどをいっばい指摘して、みんな『面倒な指揮者だなあ』と思っていたかもしれないんですが、それでもさちんと



直してくれて、本当にとっても嬉しかったです。一部に、ふざけていたり、歌っていないかったりと結構目立っている人もいたけれど、一番ではさちんと歌ってくれて、母親にも「男の子の声が一番よく聞こえた」と言われました。改めて『5組はやれば超デキるクラスなんだな』と実感しました。最後の言葉はちよつと失敗してしまっただけれど、それもすごくいい思い出になりました。結果は「最優秀賞」ではなくとても残念でしたが、私は5組のみんなで歌えたことが本当に嬉しかったし、すごくすごく楽しくかったです。放課後の練習などは、めちゃくちゃ面倒だったと思いますが、最後までがんばってくれた5組のみんな、本当にありがとう！

私は、この合唱コンクールを通して、本当に5組でよかったと思っています。もうすぐ1年生も終わってしましますが、5組で過ごしたこの1年間は、私の「生の宝物」です。



## 中2学年集会

2月18日(木)

### 修学旅行事前学習「つなぐひろいおきな輪」

#### 学年集会を通して学んだこと

1組 岡田 憲一郎

僕が学年集会を通して学んだことは、沖縄戦についてと、クラスの団結力についてです。

僕たち1組は、「沖縄に引越してきた転校生が沖縄の基地について学ぶ」というシチュエーションで劇を行うことにしました。さっそく誰が何をするか、シチュエーションはどうするか、などを決めなければなりません。僕は時間がかかると思っていたのですが、1組の皆は積極的に自ら役に立候補していました。さすが1組だと思いましたが、僕はそこが1組の良いところだ



と思います。

発表本番では、セリフを間違えたり忘れたりした人にそつと教えてあげていました。これも1組の良いところだと思います。僕もセリフを忘れてしまったうちの一人です。しかし、周りの人がそつと教えてくれました。僕は1組になれて良かったと思います。

その他、沖縄戦についても学びました。沖縄戦についての映画は、とてもリアルで目を覆いたくなるようなシーンがたくさんありました。しかし、何より驚いたのは、映画の内容が全て本当だということです。本当に沖縄であんな悲惨なことが起きたなんて僕には信じられません。あと少しで僕は3年生になります。3年になると、修学旅行があります。僕は沖縄で起こった悲劇を忘れないようにして修学旅行に臨みたいと思います。

#### 学年集会

2組 大原 綾華

修学旅行で沖縄に行くとき、「遊びに行ける。ヤッター」と思っていました。が、平和学習で行くと知り、正直がっかりしていました。が、平和学習の調べものなどをしてみると平和学習をして良かったなあと思いました。「GAMA」月桃の花」を見て、すごく悲惨なことが今の沖縄であったんだと知りました。人の死体をかき分けて歩くということは今の時代では考えられないことなので、見ていて心が痛くなりました。「死ね。消えろ」など日常では口にしたり、聞かなくても別に気にしないことでも、戦争時代の人からしたら、そんなことは絶対に口にすることはいけないことだと思えました。クラス発表の劇は、とても心配でした。2組はとても明るいクラスなので劇が簡単だろうと思っていたのですが、テーマが「沖縄戦」ということだ



だったので、すごく難しかったです。戦争に行くということは死に行くようなものなのに、行かなければならないので赤紙をもらった兵隊さんは可哀想だと思いました。やつとガマを見つけた親子でも、作戦の邪魔になるからと言われ、他に行くところがないのに追い出されて可哀想だと思いました。沖繩に行けば、映画よりももっとたくさんのお金を知れることができるので、しっかりと学んできたいと思いました。

## 学年集会

### 3組 中村 吉男

僕は学年集会の前日に思ったことが1つだけあります。それは明日の時間割を見て、「やったー！明日授業がない！ラッキー！」と思いました。しかし、今日の学年集会が終わって、「なんか、授業よりも大切なことを教わったなあ」と思いました。戦争、それは生きるか死ぬかのふたつにひとつしかない選択だと思いました。

映画を見て思ったことは、もしかしたら自分の祖先の人も戦争を体験したのかな？と思いました。今では、戦争のこと

を話してくれる身内はいないけれど、戦争のことについてとてもわかりやすく説明している映画だと思いました。

クラスによる出し物では、それぞれの特徴があつてとてもよいと思いました。自分たちは、作詞作曲を自ら頑張りました。最初は歌のメロディーを考えるのも精一杯でした。でも一日一日過ぎていくうちにだんだん歌らしいものができ始めた時はうれしかったです。また、やってみたいです。

最後の2年生の行事でとてもいいと思いました。金光公民館にはたくさんお客さんが来て、緊張したけど頑張れたと思います。戦争への思いもあり、いろいろと複雑な気持ちにもなつたけど、とてもよかったです。4月から自分たちは3年生なので頑張っていきたいと思います。

## 学年集会

### 4組 藤田 恵

今日、学年集会があつた。前日の夜は、



緊張なのか興奮なのかよく分からない感情が高ぶり、あまり眠れなかった。そして今日の朝、教室に入ったら既に私のクラスの劇は他のクラスのものより華やかでにぎやかなものだった。しかも、衣装は奇抜なものが多かった。しかし、それらは4組だから出来たのだと思う。

学年集会が始まり、最初に「GAMA(月桃の花)」を見た。映像の中には目を背けたくなるようなものが多くて、私は見ていられなくなって何回も目をそらしてしまつた。人がごみのように扱われていたり、兵隊の人格が狂っているのを見て、戦争は周りのものを破壊していくのと同様に、人の心までも狂わせるのかと思つた。もうこんなことは二度とあってはいけな

いと強く思つた。

次はクラスの出し物だった。4組の劇は〇×ゲームをはさんで4番目だったので、だいたい自分がどの位



置に立てばいいかななどの確認ができた。一緒に出る人と何回も事前に演技の確認をしたけれど、本番でできたかどうかははっきりと覚えていないが、劇をしていてとても楽しかつたのは覚えている。今まで何回も他で劇をしてきたけれど、こんなに楽しかつたのは初めてだと思ふ。他のクラスの劇もそれぞれ工夫があつて良かった。見ていて面白いな、とかすごいと思うものもあれば、心に響いてくるものもあつた。

合唱では、今までで一番きれいに歌えたと思つた。修学旅行では、自分達が調べてきたことを活かせるようにしたいのと、4組の劇のように思いつきり楽しみたいと思つた。

## 最高の仲間

### 5組 光畑 沙香

天気も良く、温かい中で私たちの学年集会は成功という形で無事終了しました。この学年集会に、私は大きな目標を持って参加しました。その大きな目標とは、学年やクラスでやる最後の行事の実行委員として、みんなをまとめ、自分が持つた役割を最後まで責任感を持つて

成功させることでした。私が実行委員になつた理由は、昨年も合唱コンクールの実行委員をしてすごく達成感があつたからです。しかし、昨年ほど簡単ではありませんでした。なぜなら今年も人数も少なく、自分の役割を果たさないと次には進めないからです。でも今年も実行委員をして本当に良かったです。



まずは前日準備。実行委員が先に入らないといけなかつたので、他の人はドアの前で待っていてくれました。その時は、実行委員に対して、「頑張れ。本当にありがとう」と言ってくれているように感じ、まるで宇宙の秘密に触れる1つの発見のように感動しました。実行委員で椅子やひな壇を準備していると、クラスの下見を終えた人たちが手伝ってくれて、魚が水に遭つたような喜びでうれしかったです。

そして、いよいよ当日。私は〇×クイ

ズと看板の担当でした。看板は大きいので色塗りは大変でしたが、天井からつるされた時には感動しました。〇×クイズもみんなで問題を考え、背景を選び、原稿を考え、読み合わせをしました。こんな作業がとても大変でしたが、実行委員の仲間を信じ、協力しあつたから、この学年集会は成功したと思ふ。

今、この学年集会を終えて、この実行委員や5組の仲間は最高だつたと思ふ。練習中は不安になることが多かつたのですが、成功して何よりも一番だつたと思ふ。この学年集会実行委員で学んだことは、みんなの先頭に立ち、まとめる力、あきらめないことを学びました。この学んだことを残り1か月のクラスや沖繩修学旅行で実践しようと思ふ。最高の仲間、本当にありがとう。



# ある日のホームルーム

合唱コンクールに向けて



## 中学1年4組

今回は2月2日(火) 6限のGTと16日(火) 3限の中学1年4組のクラスの様子をお届けします。中学会長選挙が終わると同時に、1年生は16日の合唱コンクールに向けて各クラスの練習が本格的にスタートしました。

2日は音楽の授業以外で初めての練習です。4組は教室で一度集合し、「これから音楽室に移動しますよ。移動後は合唱コンクール実行委員の指示をよく聞いて練習しよう！実行委員さん、お願いします」という指示を聞き終わると同時にみんな一斉に4階の音楽室に駆け上がりました。音楽室に入ると、大きな声で「みんなな席に着いて〜」という実行委員の指示を出す声が聞こえ、素早く着席。「はい！静かに」という実行委員の声とともにシーンと教室が静まり返ったかと思え

ば、担任に視線が集中。いつも以上に行動が機敏で、やる気に満ちあふれています。「自分たちの思うように練習していいよ」と声をかけると、「後ろに並んで」という指示がすぐに飛び交い、指揮と伴奏に合わせて自由曲『ひまわりの約束』の練習が始まりました。1回目、上手く音が取れなかったり、間奏後の歌い始めを忘れていたりと失敗が多く、歌い終わると同時にみんな大笑い。指揮者から「間奏からもう一度やろう。指揮で少し合図出すからよく見て」と効率良く練習を進めていきました。実行委員からの指摘を聞くだけでなく、全体からも「テノールが早くなるから気を付けて」「この音に分らない」「表情が良いのは〇〇君。〇〇さん」など、意見がたくさん飛び交います。回数を重ねる毎に、声も

大きく明るさも増してきたところで、時間オーバー。課題を残して練習が終了しました。

そして迎えた16日、合唱コンクール当日。3限は最後のクラス練習の時間でした。練習の前にプログラムに書かれている4組の紹介文(4組実行委員が作成)をみんなで読み、心を一つに頑張ることを誓い合いました。次に、パフォーマンスをどうするかという問いかけをすると「歌に全力を尽くす」ということに決定。「残された時間でさらに良くしよう」と練習が始まりました。1回目の練習から大きく明るい声で、楽しそうに歌う4組メンバーの姿があり、みんなからの力強いパワーを感じました。難しいテノールの部分が「やっぱり音が分らない」と何度も何度もキーボードで音をとる必死な男子たち。何とか3部合唱になってきたところで、最終打ち合わせに入ります。「指揮者が手を挙げたら、足を開いてね。最後は指揮者が前を向いたら号令ね」指揮者がみんなに指示を出します。そして最後の通し練習。今までで一番全員が集まってやり終えました。最後に「本番に強い4組だから大丈夫！」と頼もしい言

葉が全体から聞こえ、優勝にむけて意気込みを感じ、HRを終えました。  
1年間のクラスの集大成として迎える合唱コンクールですが、この練習を通して、4組の団結力が一層増したように感じました。この姿勢を忘れずに2年生に進級して欲しいですね。



### 4組

僕たちは、自由曲で「ひまわりの約束」を歌います。「ひまわりの約束」のなかに、「本当の幸せの意味を見つけたから」という歌詞があります。それは、この4組のみんなが金光学園に集まれた幸せだと僕たちは思います。

4組は、とても元気がよく、みんな仲良く、とてもチームワークの良いところもありますが、反面少しおろそかさがすぎるとなかなか立ちはだかることができません。でも、4組は、本番になるととたんに練習の時にはみだりなようなパワーを発揮します。  
必ず4組が優勝します。



# APの留学生紹介

## ありがとうーリリー



Srta. Lilian Juri Rezende de Lacerda

私たちは、国が違ったり1年と1年間生活する機会を

得ました。初めてリリーと出会った時、私は自分の言いたいことが伝わらないという辛さを味わいました。それは、リリーも同じでした。今まで母国語を使って何不自由なく生きていた私に、英語を学ぶことへの意欲と、人と触れあうことの大切さを感じさせた出来事でした。今はリリーへの感謝の気持ちと絡み、リリーと過ごした日々を振り返りたいと思います。リリーと初めて出会ったのは入学式でした。多くの学園の生徒を前にして、英語でスピーチをするリリーの素晴らしい発音に圧倒させられました。彼女のクラスは私と同じ1年3組。留学生がほつまクラスに入ることとは滅多にないと聞いたので、本当に嬉しかったです。学年最初の彼女は本当に

自由でした。制服の第一ボタンをはずしたり、携帯を使用したり、ガムをかんだりしていました。リリーはとても絵が上手でした。友人の腕や色画用紙に絵を描いては、写真を撮ってみんなに見せてくれました。彼女の絵は人の心を明るくする力があると感じました。絵だけではなく、リリーの笑顔は人を元気にさせました。彼女は私たちの小テストなどの点数を見ては、いつも笑顔で褒めてくれました。そのおかげで、次も頑張ろうと思えました。



みんなの意見ですべて計画をした一日旅行では、リリーの歌のうまさに感激し、日本では見たことのないカッパダンスを披露してくれました。みんなとリリーとの間にあった、国の壁がまた一枚なくなつたように思えました。リリーが一番活躍した「ほつま祭」。テーマはもろろん、リリーの出身地「ブラジル」で



自由でした。制服の第一ボタンをはずしたり、携帯を使用したり、ガムをかんだりしていました。リリーはとても絵が上手でした。友人の腕や色画用紙に絵を描いては、写真を撮ってみんなに見せてくれました。彼女の絵は人の心を明るくする力があると感じました。絵だけではなく、リリーの笑顔は人を元気にさせました。彼女は私たちの小テストなどの点数を見ては、いつも笑顔で褒めてくれました。そのおかげで、次も頑張ろうと思えました。

点はどんどん伸びていききました。いつもリリーの存在は私たちに大きな影響を与えていました。そして気づけば、2015年が終わろうとしていました。1月27日はリリーの誕生日でした。黒板にメッセージを書き詰めて、教室を飾りました。多くの人に協力してもらって、素晴らしい誕生日会になりました。クラスの中では、何も言っていないのに、リリーの机の上にプレゼントを置く人や、照れながらお菓子を渡す人もいました(笑)。1月30日には初めてみんなで食事に行きました。リリーとの会話を楽しくむ人や、とりあえずお腹をいっぱいになりたい人、ジュースをミックスする人など様々でしたが、みんなの笑顔が見られた最高の会でした。そして、リリーのお別れ会。1時間という短い時間で行われました。フルーツバスケットやリリークイズもありました。リリーは日本食の中で寿司が一番好きだそうです。その日は節分の日でもあったので、フルーツバスケットで残った人たちが鬼となり、豆まきをしました。



しかし、鬼になった人たちもリリーにひとことずつメッセージを言えたので、悪いことばかりではありませんでした(笑)。最後の終礼では、彼女の口から出る日本語の一つひとつに感動させられました。たった1年であんなに日本語ができるようになったことからも、彼女の努力を知ることができていると思います。彼女の目には涙があふれていましたが、必死に流さないようにこらえていました。そして、最後まで笑顔でみんなとの別れを終わりました。これもリリーらしくったと思います。リリーが日本に来たこと、金光学園の1年3組の仲間になったことは本当に奇跡です。彼女と過ごす日々の中で、彼女のひたむきな姿や明るさについても学ばされ、助けられました。国が違っても、また国が地球の反対側でも、次に会える日まで、リリーに負けないように何事も全力で頑張りました。



### リリーが出演した留学生スピーチコンテストの原稿

みなさんこんにちは。今日は、この素晴らしい日本とブラジルとのちがいにについてお話しします。

みなさんは、ブラジルでつかわれることがポルトガル語で、じさが12じかんという事はよく知っているとおもいます。もし、今がひるの12:00なら、ブラジルはよるの12:00です。

日本の学校は、ブラジルとたいへんことなっています。日本のせいふくは、とてもきちんとしています。たとえば、日本のせいとはネクタイをします。いっぽう、ブラジルのせいとは、ジーンズと学校のなまそがはいったTシャツをきます。さらに、とてもおどろいたのは、日本の学校には「ぶかつ」があることです。ブラジルの学校は、あさ7:00にはじまります。やすみじかんは9:30から20分だけです。日本とおなじように1日50分のじゆきょうが6じかんあります。そして、12:35に学校はわかって、いえにかえります。ランチはいえでたべます。

このように、日本とブラジルには、ことばやせいふくにおいて、大きなちがいがあります。でも、今日わたしがお話ししたいのは、みなさんがあまり気づいていないような、小さなちがいであります。

みなさんうでをのびして、ひとさしゆびでまるいえんをかいてみてください。今、どこからかきはじめましたか? いちばんしたのどこからかきはじめたのではありませんか? これじゃパニーヌスタイルです。ところが、ブラジルでは、いちばんうえからかきはじめます。

つぎに、みなさんが「おはよう」とあいさつするのは、なんじからなんじまでですか? たとえば、あさ8:00にともだちにあいました。なんとあいさつしますか? では、11:00にあいました。なんとあいさつしますか? このように、日本では、いつまで「おはよう」で、いつから「こんにちは」なのか、あいまいです。でも、ブラジルでは、12:00ちょうどに「おはよう」から「こんにちは」にきりかわります。だから、もし、あなたがブラジルのともだちに11:59にあって、「こんにちは」といったら、「まだあさですよ!」とちゅういされるかもしれませんよ。

このように、日本とブラジルにはたくさんちがいがあります。しかし、にているところもたくさんあります。わたしが、みなさんにぜひ伝えたいことは、2つ。このちがいにゆづりつけないということです。どちらもすばらしいし、わたしはどちらも大好きです! Thank you!

いと思います。リリーへ、日本に来てくれてありがとう。また、会う日まで。元気でね。



「ブラジル」リリー作

(1年3組代表) 白神 ひかり

# 生徒入賞作品

## ▼親へのエール論文

県知事賞

高1 6組 多田 ミユ

私は、男女共同参画社会の中で、男性が育児をとりにくい空気をなくす必要があると思う。

私の父は仕事の都合上、転勤が多い。私が生まれる前も生まれた後もそれは変わらず、私は小学生の時には、学校を4回転校した。

そんな忙しい父だったが、結婚して母のお腹に私がいることが分かると育児をとりたいと母と相談し、会社に話をしたという。しかし上司に、「女性が子供の世話をするのは当然だと思うが、君が家に居て何をやるの？」と言われ、周りの雰囲気も悪くなり、結局言い出しづらくなり、育児はとらなかつたという。

また母の方も、父が一日中仕事に行っているので、私の相手はもちろん、洗濯・掃除などの家事もこなさなければならな

かつたため、大変な思いをしたという。そんな多忙な生活が続く中、私は保育園に通い始めた。

その頃の私は、絵や手紙を書くのが好きで家族や家、お花畑などありとあらゆる絵を描いていた。しかし、父はその頃も多忙で私が寝た後に帰宅し、私が起きる前に出勤していた。そのため、父の顔が思い浮かばず適当に描いて、寂しい思いをしたりした。手紙も母宛てに書く事が多く、母も私が手紙をあげる度に喜んでくれ、今でも手帳の中に挟んでくれている。それはとても嬉しい事だが、父親とのふれ合いが少ない私の物寂しさは心の奥から消えなかつた。

高校に入学した時、父と2人で私の今までの話をした。父が言うには、「ミユが生まれた時、育児とって母さんと一緒に育てたかつたなあ。ミユが保育園の頃には、もっと遊んであげたかつたけど、あんまり遊んであげられなくて悪かつたなあ。母さんも1人で大変だつただろうなあ」と私に話してくれた。それを聞いて私の胸には熱いものがこみ上げてきた。それをぐつとこらえ、その日の夜、母さんにもその事を伝えると、「そうだ

よね。ミユが小さい頃も、仕事から帰るといつも遊んであげたいって連呼してたもん。次の休みは遊んであげられるかなあつて……。そればかり言つてたよ」と言われた。今まで、寂しい思いをしていた私は、忙しいなりに父が愛してくれていたのを知ると、またも熱いものが込み上げてきた。それをこらえ、「父さんに感謝の気持ち伝えなきゃね」と母さんとの会話を続けた。

日本にははまだ男性が育児をとるという事がとりやすい環境ではないが、海外では男性も育児をとり、妻のサポートをしているというのをテレビでよく見かける。妻も夫が家に居てくれるだけで、家事が分担でき、効率よく1日を終えることができるという。子どもも父母両方の愛情の中で育てられるので、私のように幼少期に寂しい思いをしなくてすむ子供が多くなることはないと思う。

男性が育児をとりやすくするために、まずは周りがとりやすい雰囲気を作るべきだと思う。私の体験でも書いたが、父も上司が快く育児を進めてくれたら、私との思い出もたくさんできたように感じる。

現在の日本が、男女共同参画社会を押し進めていくのならば、男性だから女性だからという偏見を捨てるべきだと思う。偏見を捨てなければ、大正や明治時代にあった男女差別と同じようなものが残り、男女差別がなくなつたのは表面上だけだと感じてしまう。

そんな事をなくすためにも、まずは一人一人が偏見をなくすべきだと思う。私が大人になった時、今より男女共同参画社会が根強くなつた日本になつてほしいと思つている。

## 経済同友会賞

### 『男女平等の実現へ』

高1 6組 西川 華

「はあー。間に合つた。」聞き覚えのある声が聞こえた。私はそのとき深い安心感に包まれた。

この出来事は私が小学4年生のときのことだ。私の小学校では「二分の一人式」を授業参観と兼ねて行うことが、小学4年生の恒例行事であった。この「二分の一人式」では今まで歩んできた人生を振り返るとともに、日々の感謝の気持ちを、子から親へ伝える場でもあつ

た。この式が行われる日に向けて私はクラスメイトと共に一生懸命練習に励んでいた。そして式が行われる当日になり、続々と友達の親は教室にやつてきた。一人、また一人と教室の後ろに並ぶ親が増えるたびに、自分の親はいつ来るのだろうかという心配も増した。式は進行していき、私が親へ感謝の言葉を述べる番が近づいてきた。しかし、教室の後ろを見てもいるはずの母親がいない。「体調悪くなつたのかな?」「交通渋滞で遅れているのかな?」

いろいろなことが頭をよぎつた。しかし、時はあつという間に過ぎていく。と同時に私の発表する順番になつた。私は教室の前方へ行き、母がいないことを確認して大きく息を吸つた。その瞬間、教室のドアが開き、母が教室に入つてきた。私は一瞬驚いたが、もう一度息を吸い、母へ感謝の気持ちを一言一言丁寧に伝えた。母は私が発した言葉の一つ一つをうなずきながら聞いてくれた。最後の言葉を言い終わつた後、

「遅くなつてごめんね。」ほんわかとした顔で、母はそう言った。私は

「ううん。大丈夫だよ。」としか言い返せなかつた。

十六歳になつた今、私はこの出来事を思い出す度に自然と悲しく、情けなくなつてくる。あの日、母は小学校へ来るぎりぎりの時間まで仕事をしていた。仕事が終わると昼食を食わずに急いで学校に来てくれた。その上、母は全く悪くないのに私に謝つた。それに対して今もまだ母に感謝の言葉を伝え切れていない私。とてもやるせない気持ちが入み上げてくる。今思えば、私は母に迷惑ばかりかけてきた。わがままばかり言つてきた。やりたいことは全てやらせてもらつてきた。こうして様々な経験をやる場を与えてもらい、成長してこれたのも少しの間間をも無駄にせず、仕事に打ち込んでくれた母がいたからだ。それに、冒頭の出来事がきっかけで仕事の大切さを教えてくれたのも母だつた。そんな母は最近仕事を終え帰宅すると、疲れているように見える。だからこそ伝えたい。お母さん、仕事を続けてくれてありがとう。小学生のときは素直じゃなくてごめんさい。

疲れたときはゆっくり休んでね。私もいつかお母さんみたいな人になれるように



### 《高美術部》

2月2日～7日に岡山県天神山文化プラザで行われた第48回岡山県高等学校美術展に高2生徒4名が出品し、山本佳歩さんが準特選に選ばれた。また高校生も「浅口市オリジナルナンバープレート」デザインの応募に向け、部員全員で取り組んだ。

### 《中・高書道部》

全日本高校大学生書道展において高3藤井一嘉が優秀賞、高2藤井基輔が準優秀賞を受賞した。国際高校生選抜書道展において高3藤井一嘉が入選を受賞した。第52回全国競書大会（創玄書道会）において書道部、芸術書道選択の生徒が出品し優秀団賞を受賞した。第29回岡山県高校生書道展覧会において高2岡桜子、高1鬼塚明希、富田瑞貴、中塚心愛、長田麻依が作品を発表した。（以下は2015年1月の大会のため学年表記が昨年度になっている）第31回成田山全国競書大会において高1藤井基輔が特選月輪賞、高3渡辺祥代、高2藤井一嘉、母里朱香音が秀作金剛賞を受賞した。

### 《茶道部》

11月22日に竹園会が碧水庵で行われ、

日ごろの練習の成果を披露した。また1月13日に天満屋葦川会館で行われた院展添釜で、お点前やお運びをするなど貴重な経験をさせていたいただいた。

### 《音楽部吹奏楽団》

11月15日（日）、金光町音楽祭で「GUTS」「You raise me up」「ふるふる」「MICKY MOUSE MARCH」を演奏した。11月22日（日）あさくち手じつとマルシェに参加し「ふるふる」「You raise me up」「MICKY MOUSE MARCH」「GUTS」「夢をかなえてドラえもん」「Make her mine」「踊るポンポコリン」を演奏した。11月23日（月）に開催されたバンドフェスティバルでは「踊るポンポコリン」「MICKY MOUSE MARCH」「高吹連賛歌」を演奏した。12月14日（月）留学生交流会では「世界に一つだけの花」「踊るポンポコリン」「MICKY MOUSE MARCH」を演奏した。12月23日（水）は寿光園にて「サンタが街にやってくる」「ジングルベル」きよしのズンドコ節」「天城越え」「北国の春」「リンゴの歌」「青い山脈」「いつても夢を」「昴」「夢をかなえてドラえもん」「新童謡オープニング」「Believe」を演

奏した。12月26日（土）にいるかの家にて「きよしのズンドコ節」「天城越え」「北国の春」「リンゴの歌」「青い山脈」「いつでも夢を」「昴」「夢をかなえてドラえもん」「新童謡オープニング」「Believe」を演奏した。

1月9日～11日に第47回岡山県アンサンブルコンテストに出場し、中学校の部ではフルート4重奏・金管6重奏が銀賞、高等学校の部では木管3重奏が銀賞、金管6重奏が銅賞を受賞した。1月23日（土）に開催された第59回ジョイフルコンサートでは「ザ・ウインド・ライズ」を演奏した。

### 《音楽部コーラス》

10月7日（土）・8日（日）に福山市の特別養護老人ホーム幸楽園とグループホームなごみに伺い、訪問演奏をさせて頂いた。どちらも懐メロを中心に一緒に歌ったり、手遊びをしたりして、とても楽しい時間を過ごすことができた。

12月24日（木）に倉敷市の大内保育園に伺い、訪問演奏をさせて頂いた。クリスマスソングなど子供たちの楽しめる歌を中心に歌い、生徒が考えた劇や手遊びなどをして一緒に楽しんだ。また演奏後

は園庭で子供たちと様々な遊びを一緒にすることができて有意義であった。

12月26日（土）に浅口中央公民館でわくどきコーラスの小学生・園児たちと交流会を行った。一緒にクリスマスソングやポップスを歌い、部員が振り付けをわくどきの子たちに教えたりして共に楽しく過ごすことができた。

1月23日（土）に第59回高梁川流域高等学校音楽会ジョイフルコンサートが倉敷市民会館で開催された。午前中は合同演奏の練習をし、午後からコンサートであった。リズムの難しい曲に挑戦したが何とか歌い切り、夏のコンサートに向けての課題も見つけることができた。

【曲目】「ビュートイフルネーム」「積積み唄」

### 《写真部》

第3回住友不動産販売フォトコンテストへの入賞をめざし、「日本の風景」をテーマに個々写真撮影に励んでいる。

### 《中放送部》

1月20日に行われた生徒会長選挙に向けて、候補者の政見放送の収録と編集に取り組んだ。また、3月18日のゆずり葉の会では司会や音響係として活躍した。

### 《高放送部》

2月11日に国際化の発表会にて、2年湯浅果音が司会を行った。また、1・2年の部員で高2音楽選択者の発表会に音響係として協力した。

### 《文芸部》

12月に「甘い誘惑」、1月に「手のひらの温度」、3月に「春を待ちわびて」と題した月例集を制作し、批評会を行うことで互いに研鑽に励んだ。また、卒業式に際しては記念集「虹の彼方に」を制作し、7人の卒業生に贈っている。

### 《軽音楽部》

部員は現在11名。活動形態は週1回各バンドで練習している。それぞれのバンドが目標を持って努力している。

### 《ラグビー部》

12月19日（土）から美作市長杯ラグビーフットボール大会に岡山朝日との合同チームで参加、予選リーグでは関西に7-38、岡山工業に0-29で敗れた。翌日の決勝リーグでは合同C（高松農業・鴨方・林野）に27-5で勝利、合同B（岡山一宮・津山高専）に12-22で敗れたが、得失点差でボウルリーグ優勝に輝いた。平成28年1月3日には正三会を実施。多

くの卒業生から暖かい応援とカンパをいただいた。また、金光学園ラグビー部OB会が正式に発足する運びとなった。1月10日（日）からスタートした新人戦にも同様の合同チームで参加。1回戦は関西に7-71で敗れた。続く3位決定トーナメント1回戦では創志学園に47-15で勝利したが、2回戦で岡山城東に7-51で敗れた。3月に山口県で行われる中国高等学校合同チームラグビーフットボール大会のU18岡山選抜選手に、高2吉原龍彦・橋高裕人・廣井馨・芳野 悠希・福島拓紀・原田雄矢の6人が選ばれた。

### 《中男子ソフトテニス部》

11月14日に金光スポーツ公園において開催された。第20回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会に参加した。I部に6ペア、II部に5ペア出場した。I部においては竹内・倉田ペアがベスト16に入ったが、II部では全ペアが1回戦または2回戦で敗退した。また、12月13日に岡山市立桑田中学校と練習試合を行った。大きく負け越し、岡山地区との差を感じる結果となった。

### 《高男子ソフトテニス部》

12月20日（日）に岡山県高等学校選抜



インドア選手権大会出場権がおこなわれ、岡山県新人戦(ダブルス)でベスト24に残った黒川・石原組が出場したが、初戦で敗退した。また1月24日(日)の岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(シングルス)にも黒川・石原の2名が参加したが、予選リーグで敗れ決勝トーナメント進出はならなかった。

2月6日(土)には岡山県技術等級ソフトテニス大会がおこなわれた。4ペアが中級の部に出場し、黒川・石原組が予選リーグを突破して決勝トーナメントに進出し、2回戦で敗退した。

#### 《卓球部》

11月21日に総社市長杯に参加した。男子団体予選リーグでは総社に3-0、香和に3-0で勝ち、T.Cマルカワに1-3で敗れて予選2位で決勝トーナメントに進み、1回戦で御南に3-2で勝ち、2回戦で妹尾に0-3で敗れてベスト16であった。男子個人では山形(2年)が決勝トーナメント進出し、女子個人では東(2年)が決勝トーナメントに進出した。12月25日に全国中学選抜県予選会に参加した。男子団体予選リーグで桑田に3-0、光南台に3-0、早島に3-0で

勝ち、西大寺に0-3で敗れてベスト16であった。

12月27、28日に鳴門市オープン卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で敗退した。

1月10日にニッタク杯争奪笠岡市卓球大会に参加した。男子団体ではAチームが予選2位で順位トーナメントに進み優勝した。Bチーム、Cチームは予選1位で決勝トーナメントに進み1回戦敗退でベスト8であった。女子団体では予選2位で順位トーナメントに進み1回戦敗退であった。

1月23日に県卓球協会加盟団体戦に参加した。男子団体予選リーグで桑田に3-0、多津美に3-1、灘崎に3-1で勝ち、T.Cマルカワに0-3で敗れて予選2位で決勝トーナメントに進み、1回戦で妹尾に0-3で敗れてベスト16であった。

1月24日に井原男女個人卓球大会に参加した。女子個人では細井(2年)が予選2位で順位トーナメントに進み優勝した。

2月7日に県境卓球研修大会に参加し

た。男子団体では予選2位で決勝トーナメントに進み、1回戦で鹿谷に3-0、準々決勝で上道に3-0、準決勝で波賀に3-0、決勝で桜が丘南に3-2で勝ち、優勝した。

#### 《高卓球部》

11月22日に総社市長杯に参加した。一般男子個人の部では福田(2年)が決勝トーナメントに進出し、一般女子個人の部では西岡(2年)が決勝トーナメントに進出した。

12月19日、23日に県高校新人大会(団体の部)に出場した。男子団体では2回戦で倉敷天城に3-1、3回戦で岡山芳泉に3-0、準々決勝で玉野光南に3-1で勝ち、準決勝で倉敷工業に1-3、3位決定で津山高専に2-3で敗れたが、第4位で中国大会の出場を決めた。女子団体では2回戦で津山東に3-0、3回戦で岡山操山に3-1、準々決勝で美作に3-2で勝ち、準決勝で山陽女子に0-3で敗れたが、3位決定で岡山東商に3-2で勝ち、第3位で中国大会の出場を決めた。

1月10日にニッタク杯争奪笠岡市卓球大会に参加した。男子団体ではAチーム

が準決勝で玉野光南Bに敗れたがベスト4に入った。女子団体ではAチームが決勝で倉敷青陵に勝ち優勝、Bチームがベスト4に入った。

1月23日に県高校新人大会(複の部)に出場した。男子ダブルスでは木下(2年)・福田組がベスト8に入った。女子ダブルスでは西岡・内山(1年)組と西原(1年)・東(1年)組がベスト16に入った。1月29-31日に全国高校選抜中国地区予選会(総社市)に出場した。男子団体では予選リーグで広島商業に2-3、鳥取敬愛に1-3で敗れ予選敗退。女子団体では予選リーグで柳井商工に1-3、広島商業に2-3で敗れ予選を敗退したが、2-3位トーナメントで決勝まで進出した。

2月6日に県高校新人大会(個人の部)に出場した。男子シングルスでは福田がベスト16に入った。女子シングルスでは西岡がベスト16、難波もなみ(2年)と中務(1年)と東と藤澤(1年)がベスト32に入った。

#### 《中野球部》

11月14日に玉島の森野球場などで行われた第16回玉浅良寛杯では、2回戦玉島

北中学校に2-3で敗れた。

12月27日・28日の高知遠征では、他県の新人戦優勝チームなどと対戦し、大きな刺激を受けた。現在は、夏季総体へ向けてお互いに励まし合いながらトレーニングに励んでいる。

#### 《高野球部》

1月4日には、新年の練習はじめとして、毎年恒例である本部参拝を行いました。冬の厳しい強化期間には、食べる合宿など、体作りに本気で取り組み、例年以上にたくましい体に仕上がっています。4月下旬の県大会はすでに出場がきまつており、しっかりとチームを仕上げ、春を待ちたいと思います。

#### 《中サッカー部》

11月8日に寄島三ツ山運動公園で行われた、浅口ライオンズ杯の結果は次の通りである。1回戦、対連島中(0-0) PK 5-4で勝利。2回戦、対寄島中(5-0)で負け。3位決定戦、対中山中(0-0) PK 2-1で負け。結果4位となった。

12月23日に金浦中学校で行われた、西備地区クラブユース大会の結果は次の通りである。1回戦、対総社西中(9-1)で勝利。2回戦、対金浦中(4-1)で

勝利。3回戦、対金光中(3-0)で勝利。結果1位でリーグ戦を通過した。3月21日に1位リーグに出場することになった。

12月26日に当新田サッカー場で行われた、百間川サッカー大会の結果は次の通りである。1回戦、対岡山セゾン(2-2)で引き分け。2回戦、対芳田中(3-3)で引き分け。3回戦、対桑田中(3-1)で勝利。

#### 《高サッカー部》

岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会1次リーグが12月19日・20日・23日に行われた。ケガ人が多い中での総力戦となった。初戦、倉敷工業に0-6で敗れ、龍谷には惜しくも0-1で敗れた。しかし、高梁城南高校には10-0勝利し、年明けの代表決定戦に進んだ。

年末には練習試合を就実高校(2-1:1-2)、理大附属高校(0-0)、興陽高校(1-3、1-2)と行い、蹴り納めとした。年始にはOB戦を行い、今年は大生を中心によくの懐かしい顔ぶれと共に初蹴りを楽しんだ。

新人戦地区予選代表決定戦が、1月9日・10日に行われた。笠岡工業に(14-

0)で勝ち、倉敷南高校に(0-3)で敗れ、惜しくも県大会出場を逃した。

1月16日には、おかやま山陽高校と30分5本の練習試合を行った。

#### 《中柔道部》

12月25日26日に玉野スポーツセンターで行われた、中学強化合宿に参加した。県内の強化選手と練習を行った。12月27日28日に玉野錬成会に参加し近県の選手と練習を行った。

#### 《高柔道部》

1月16日17日に岡山武道館で岡山県柔道高校選手権大会が行われ高2江草ひな子が女子個人戦において第2位となった。また高1戸田勝己が男子個人60kg級でベスト8となった。

#### 《中・高柔道部》

1月3日に本部参拝と初稽古を行った。多くのOBの方々も練習に参加いただいた。また保護者の方々にも昼食準備等手伝いいただいた。

#### 《中剣道部》

《第34回笠岡剣道大会》 11月15日(日)笠岡総合体育館で開催され、網引剣道教室Aに負ける。

《第62回玉島剣道大会》 11月22日(日)

玉島の森体育館で開催され、倉敷福田道場に負ける。

《第37回岡山県中学校1・2年生大会》平成28年1月17日(日)笠岡総合体育館で開催され、津山西中学校に負ける。

#### 《中・高剣道部》

《稽古始め・OB・OG会》平成28年1月2日(土)道場にて開催し、先輩方に稽古をお願いして快い汗を流し、親交を深めた。

《寒稽古》平成28年1月12日(火)16日(土)道場にて恒例の寒稽古を「厳寒に鍛える」をモットーに、朝、夕と実施した。皆勤者は日名啓介(中3、3年連続)、岡本紘太郎、佐伯優真(中2、2年連続)、市川真広(中2)の4名であった。

#### 《中女子バスケ部》

12月13日(日)に岡山市立西大寺中学校において第19回OLL OKAYAMA WINTER CUPS 1次リーグが行われた。金光学園45-15岡山市立西大寺中、金光学園21-27倉敷市立真備東中、金光学園30-16玉野市立日比中、金光学園37-10岡山市立京山中と3勝1敗となりリーグ2位となり、2次リーグに進むことのできなかった。

とができなかった。

2015年1月10日(日)11日(月)に行われた玉島・浅口・笠岡地区大会では、予選リーグ鴨方中11-39金光学園、玉島東中9-39金光学園で2勝し、翌日行われた決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは、準決勝笠岡東中28-64金光学園で勝利。決勝では、真備東中と対戦。真備東中20-40金光学園で勝利し、優勝することができた。

1月24日(日)に備西バスケットボール1年生交歓大会が行われた。1次リーグ玉島北中12-8金光学園、黒崎中5-35金光学園となり、結果リーグ2位となり、2位リーグへ。2位リーグでは、里庄中6-23金光学園、笠岡東8-6金光学園となり1勝1敗で終わった。

#### 《高男子バスケ部》

9月19日、20日に行われた選抜優勝大会備中地区予選会において、1回戦、笠岡高校に54-40で勝ったが、2回戦、総社南高校に36-40で惜敗した。11月14日21日に行われた新人優勝大会備中地区予選会において、1回戦、倉敷翠松に81-39、2回戦、高梁高校に50-46で勝ち、県大会出場を決めた。県大会出場は平成

22年度以来、5年ぶりだった。ブロック決勝では、倉敷古城池高校に43-73で敗れ、5位決定トーナメントに回り、1回戦で総社高校に58-64で敗れ、備中地区7位で県大会に出場することになった。12月19日(土)に行われた県大会出場チームによる強化練習会に参加した。12月26日・27日に行われた玉島・浅口・笠岡地区新人バスケットボール大会において、予選リーグでは、笠岡高校に30-12、玉島商業高校に53-22で勝ち、リーグ1位で翌日の決勝リーグへ進んだ。決勝リーグでは、岡山龍谷高校に38-43で惜敗、笠岡商業高校に46-31で勝ち、1勝1敗で2位となった。12月29日には、恒例の香川遠征を行った。年が明けて、1月2日に行われたOB会では、老若男女、約40名のOB・OGと交流を深めた。1月9日・10日に行われた新人優勝大会岡山県予選会では、1回戦、津山商業高校に69-56で勝ったが、2回戦、岡山県1位の玉野光南高校に33-102で敗れ、県ベスト16であった。県ベスト16は、平成17年度以来、10年ぶりだった。

保護者会活動としては、試合の応援・差し入れに加えて、12月23日に忘年会を

企画していただき、部員・保護者・顧問の親睦を深めた。

#### 《高女子バスケ部》

11月15日、新人優勝大会備中地区予選会に参加した。1回戦、笠岡高校に75-72で勝ち、ブロック決勝で、倉敷南に87-58で負けた。1回戦は勝利したため県大会出場を決めた。12月26日27日、玉島浅口笠岡大会に参加した。2日間合わせて4戦し、全勝で優勝した。この大会には中3も出場し、高校の試合デビューを果たした。

1月9日に新人大会岡山県予選会に参加し、1回戦、岡山城東に76-31で負けた。

#### 《中女子バレーボール部》

1月23日に春の中学校バレーボール大会備南西地区予選会が行われ、1回戦井原中0-2で敗れたが、持てる力を発揮しがんばった。

#### 《高女子バレーボール部》

12月19日に行われた新人戦備前地区予選に出場した。結果は1回戦は鴨方高校と、敗者戦では高梁城南高校と戦い、接戦の末敗れた。

#### 《少林寺拳法部》

中学・高校ともに昇級試験・昇段試験

に向け練習している。

#### 《バドミントン同好会》

毎週火曜日に小体育館にて楽しく練習している。

#### 《数学同好会》

1月23日に岡山大学で開催された「広がる数学VI」数学講演会に高1高原健が参加した。1月24日に岡山大学で開催された「集まれ！科学への挑戦者」ポスター発表会に中2真鍋太一、富田祥吾、中村洗介、石井杏佳、徳永芽依が「効率の良い草むしり」というテーマでポスター発表を行った。

#### 《木綿崎ボランティア部》

1月25日30日の間、寒心行を行った。金光校長、久保田光盛先生、角南佑典先生、小池智士先生、山口紗生先生、部員の高1岡本樹生、友末泰嗣、中3家島彩加が話した。最終日には100名以上の生徒がお話を聞いた。

#### 《歴史研究同好会》

来年のほつま祭に向け、テーマ・内容を検討している。

#### 《花道同好会》

毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下稽古をしている。

# 学園だより

**進路委員会** 12月4日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。7日に高1で、8日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

**個別面談** 中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。

**終業式** 12月24日、2学期終業式が中高合同で行われた。

**仁川英語村海外研修生徒本部参拝** 12月24日、終業式後、参加者が本部参拝をして無事帰国の報告を行った。

**中学入学試験** 1月6日、305名が志願していた中学入学試験が行われた。9日に合格発表が行われた。専門合格者は15日までに、併願合格者は2月12日までに手続きを完了した。2月14日には、入学までの指導や制服の採寸のための集まりがあった。

**始業式** 1月8日、3学期始業式が中高合同で行われた。校長式辞・高3生徒（加賀拓磨君）の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、ブラジルからの留学生リリアン・ラセルダさんが1年の留学を終えるにあたって、別れの言葉を述べた。

**街頭交通指導** 1月8日から3月19日まで教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

**高県外入試** 1月10日、46名が志願していた県外入試が行われた。13日に合格発表が行われた。

**センター試験**

1月16・17日に実施された大学入試センター試験には、高3生182名が出願し、くらしき作陽大学・川崎医療福祉大学・中岡学園大学・岡山商科大学で受験した。1月21日に行われた



た来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の近藤瑞浦さんが、副会長には2年の宮本将成君と西谷和晃君が選ばれた。

**AFS留学生** 1月末でブラジル出身のリリアン・ラセルダさんが1年の留学期間を終了した。学校の送別会も2月1日に行われ2月6日に帰国の途に就いた。

**イギリス短期語学研修** 第5回イギリス語学研修に向けて昨年12月から3月12日にかけて8回、校内で事前指導を行った。

**進路委員会** 1月23日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

**進路学習**

1月26日、中2は17分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意義・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立てた。2月7日、中3は高校入学後の教科選択の説明を聴き、それを元に進路を考え、教科選択票を提出した。

**学校保健委員会**

1月29日、校医、や

つなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。脳神経センター大田記念病院の大田泰正先生の御指導のもと「脳しんとうについて」の講和をうかがった。

**高校入学試験** 2月4日、推薦入試（専願）と一般入試（専願・併願）が同時に行われ、それぞれに2名、75名の中学生が志願した。2月8日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は14日までに手続きを終え、16日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。進路調整のためのスクーリングを、それ以後の日曜日と春休みに合わせて10日間受講した。併願合格者は、3月20日の招集日に手続きを完了し、それ以後に10日間のスクーリングを受講した。

**美術館見学** 2月9日、中3は美術の授業の一環として、総合学習として、事前学習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

**国際化の発表会** 2月11日、今年度のSSHにおける『国際化』の取組について

の発表会を開催した。当日は、探究I課題研究発表会と探究IIの理系分野で、英語のポスター発表を外国からの留学生68名（浅口市・倉敷市のALIT舎、参加国数20）に來校していただき、華やかに英語でプレゼンを行った。外部からの参加者は8校、参加生徒数約60名に上った。SSHの発表は一期最終年。

**合唱コンクール** 2月16日、中1が小体育館で合唱コンクールを開催した。各クラス課題曲（絆、マイバード）と自由曲の2曲を熱唱し団結力を示した。

**学年集会** 2月18日、中2が浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表会を行い、学年の団結を誓い今年度の総括の場とした。

**高2芸術選択者発表会** 2月20日、音楽選択者は練習の成果を浅口市市民会館金光での演奏会で発表し、18日から23日まで、美術・書道・工芸の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

**卒業式** 3月1日、第68回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、231名の生徒が学園を巣立った。

◇**教主金光様のおこぼ**  
本日は、おめでとうございます。ただ今、



代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈ってやみません。

**教育相談保護者会** 3月5日、6名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に交流会が行われた。

**防災訓練** 3月11日、「3・11東日本大震災を忘れない」ために、昨年に続き防災訓練が実施された。地震を想定しての防災で、中学・高校別々に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長の話を伺った。

**お祝い** 友田勝己先生には12月26日にご結婚、お慶び申し上げます。

**お悔やみ** 前金光学園幼稚園園長、金光榮理雄先生には12月23日に、高橋洋子先生の御母堂には2月21日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

# 教室の窓から

「宇宙の果ては  
どうなっているのですか？」

中学校3年生の天文分野は、宇宙がいかに広いのか。ということから学び始める。そして、すべてのクラスで、必ず誰かが「どうだ？ 答えられまい。」と言いたげな、いい顔でこの質問をしてくれる。私は情けないことに、ドキドキしながら「137億光年よりも遠い所のこととはよくわからないらしいよ」とか、「調べて教えてね」とか、頼りなく答えることになる。天文分野を担当させていたのは2度目。初めて担当した際には、金星の単元の前、月の単元まで扱った。今回は、その時の資料を参考にしながら授業準備を進めていった。どんな質問が飛んでくるかと、毎回の授業に緊張して臨んだ。なんとか調子も出てきたところで、とうとう初めての「金星」の単元に突入した。恥ずかしながら金星のことなどすっかり忘れていた。授業のためには、一から勉強しなおさなければならぬ。学んだことを、やはり興味がいってくる。学んだことを、どう伝えたいだろうか？と考えることも楽しい。

その頃は、ちょうど明けの明星として、金星が最も明るく輝く時期。毎日4時ごろ不思議と目が覚め、家のベランダから、金星を眺める日々が続いた。その輝きが特別で、「ヴィーナス」という美しい名前がびびりたかった。この頃、学習面において「語ることの大切さ」がよく言われる。私も、授業のために金星について学び生徒とやりとりをするうちに金星に夢中になった。金星が本当に欠けているところを見たくなり、天体望遠鏡まで買ってしまつた程だ。私は、自然について話させていただけの仕事に就いた。そのことで、生きていることや、自然の素晴らしさに気づかされる機会をいただいている。本当に幸せだ。語り合った内容は忘れられない、そうすることで気づかされること必ずつある。生徒の皆さんにも学園生活を通して、そして卒業してからも多くのことを学び、熱く語り合ってほしいと思う。ちなみに、明け方見えていた金星は、これから太陽の向こう側を通るため、しばらくは見ることができなくなる。そして、今年の10月ごろに再び、今度は夕方西の空に現れる。そこから、地球にだんだんと近づいてきて、2017年2月には最大光度となる。それは、星座をつくる星の中で最も明るいシリウスの20倍の輝きである。

## 編集後記

中学図書室が年度末に中学棟から特別棟の前被服教室に移転した。移転作業は先月中旬から中学図書委員会を皮切りに始まった。司書の藤井さんが手はずの説明をし、委員の生徒が本を15冊程度の束にして旧図書室が蔵書で溢れかえった。その後、今月(3月)に入り、新学期で搬送、搬入作業にかかった。新たな貸し出しは、4月以降になる。国際化の発表会を2月11日に開催した。例年3月号には間に合わないので記事は掲載できなかったが、今回間に合せて嬉しい。当日は西日本の大学を中心に68名の留学生(20か国に及んだ)に來校していただいた。生徒が課題研究を英語で発表することのイベントには、大好評で次回もぜひ参加したいとのこと。生徒には、発表原稿など気にせず自分の言葉でしっかり研究内容を伝える姿勢を身につけてほしい。その場でのQ&Aに応じるにはハードルがまだ高いが、次世代に求められるだろうグローバルな社会を生き抜く若者が確実に育っていると感じている。

平成28年3月9日印刷  
3月16日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部

印刷所

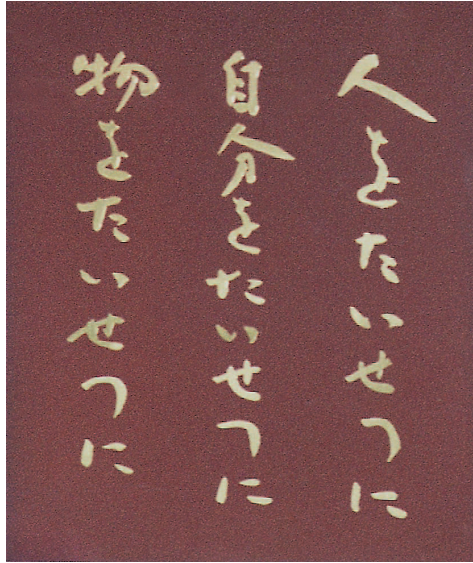
倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一  
玉 島 活 版 所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会

## 高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)